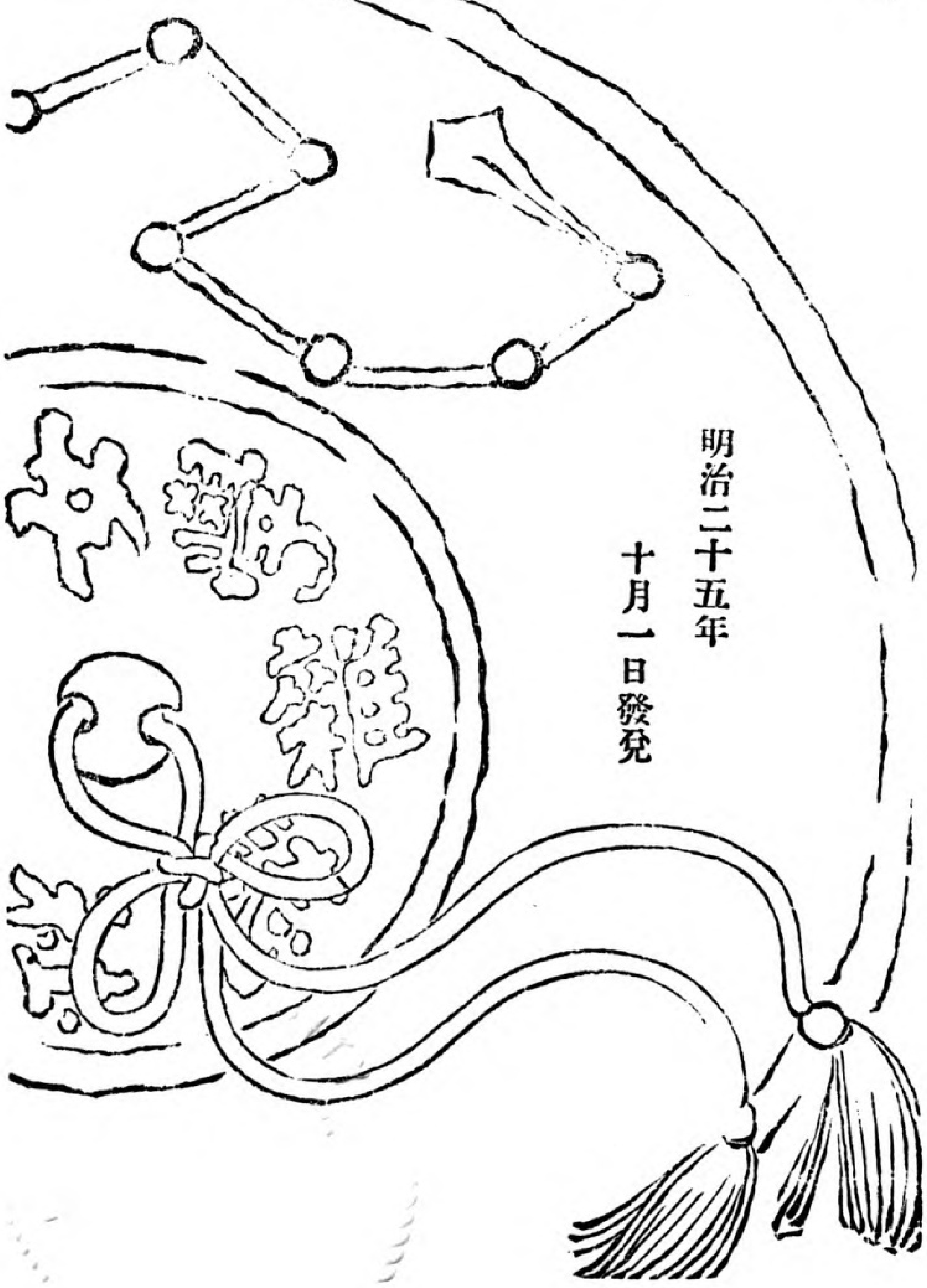
Oct. 1892
no. 328-2

女學雜誌

第三百二十八號
乙の卷



明治二十五年
十月一日發兌

注意

社説 **世界婦人**禁酒會頭 **生母眠る**と題する者は、彼のウイラード女史が生母の世を去りたるを弔ひ、其人と成りの優れたる、風采の猛々しかりし状を寫し、ウイラードは迸りたる快泉なり、母は雨露を地中にひそめて岩を割り木の根を潤したるものなりと論じて十分に其人物を評し且つ**精密なる肖像**を添え。**吾宿の花**は今號より又々續稿を掲げクランド主人一家のホームの光景いよく麗はし **齒の養生方**は此道に精はしき專門家の講義にして若し之に從ふときは長命長壽疑ひなし又本號より**新小説**朝顔と題するを掲ぐ、新たに文學界に入りたる新客手習屋主人の作なり**美人**となる法は西洋婦人の玉手箱を其儘に開**沙翁曲中の戀人**はシェクスピアが院本中のあらゆる戀人を一々列擧し別々の特所をしめす**家政**には、主婦の秘訣、兎の飼ひ方、樣々の秘傳など掲げ、其他、案山子の舍の咏草批評、ひさご女史の雨の夜の感、文學專門と云ふ事の説などあり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 328. October 1st. 1892.

EDITORIAL :—Death of Miss F. Willard's Mother (with portrait.)

LECTURES :—How to Preserve the Teeth.

NOVEL :—"Asagawo."

LITERARY :—Literature as a Branch. How to become Beautiful.

MISCELLANEOUS :—Lovers in Shakespeare. A Rainy Evening. (Hisago.) Yesterday and To-day.

CHILDRENS COLUMN :—"The Flower of the family."

THE HOUSEHOLD :—The Secret of the House-keeper. How to Keep Rabbits. Gold-dust.

HERE AND THERE :—

CRITICAL NOTES :—

CONCERNING WOMEN :—

本號（第三百廿八號）目次

○社說　世界婦人禁酒會頭の生母眠る。及其肖像

○講述　齒牙生理の大意（愛水生）

○小說　朝顏（菊地、御伽ぎ）手習屋の主人

○文藝　文學專門と云ふ事（みどり）○美人となる法 ○案山子の舍詠草

○雜錄　沙翁曲中の戀人（其二）○雨の夜（ひさご）○今むかし（ふみ子）

○兒籃　吾宿の花（若松しづ子）

○家政　主婦の秘訣一則（ふみ子）○家兎の飼方○黃金の砂二つ三つ

○摘要　女學生の産兒力

○批評　保羅の傳

○女報

○附錄　孤兒之友（山月子）

前週（第三百廿八號）白表

●社說　主動者の至誠○松平熊本縣知事

●雜錄　青年改革家に告ぐ（山月子）○片珠

●論說　心機妙變を論ず（透谷子）。○文覺上人の本領（天知子）

●小說　夏草（無名氏）

●批評　橫井小楠 ○家庭雜誌 ○傳道師 ○早稻田文學の無韻非歌論を讀

●摘要

●片々

●附錄　惣目錄

前々週（第三百廿七號）赤表

●社說　宣教師派各女學校に一策を献す

●論說　何故に余は禁酒主義を執る乎（ツイラード）

●小說　正直ものゝ子澤山（花園女史）

●文藝　歌の誠及池袋社中（紫花山人）○案山子の舍歌評

●雜錄　沙翁曲中の戀人○何故グラッドストンは健康なりや○茶話會（子供にきらわれる法。すかれる法○女の謹み（山月子）

●家政　育兒談○家庭の養鷄（巣鷄の撰擇法○抱卵法及び巣鷄の取扱○こがれの砂二つ三つ（手輕西洋菓子の法）○生魚の腐りを止る法○汚き水を淸くする法○毒虫に刺れたる時の藥○糠味噌の酸味を止むる法

●批評　國母論。乳肉新報。

●摘要

●女報

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌
第三百廿八號
明治二十五年十月一日發兌

社説

世界婦人禁酒會頭の生母眠る

印度の女傑ラマバイ嘗て言へり、古來未だ曾て全世界各國の大統領となりしものはあらずと雖ども、近年に於て之に唯一人あることを發見せり、其人は婦人なり、即はち万國に跨がれる世界婦人禁酒會の惣會頭たる、フランセス、ウイラード女史是なりと。

然るに、水は枯れたる源より流れず、花は廢れたる蕾より開かず、賢才は之を産み之を育て之を敎ゆる所ろの母なくんば世に生き存らふることあらず。彼のウイラードは、セント、アウガステン（古の敎聖、神學の大家）と共に、ナポレヲン、ボナパート（佛國第一世ナポレヲン）と共に、われを産みわれを造りし人は、わが母なりとこそ言はめ。

然るに、此母は、今や世を去れり。現今我國に來遊中の女記者ウエスト君執筆の雜誌たる、ユニヲン、シグナルの語ばを假りて言はば、今や大ひなる大陽の日沒の如くにして、彼の母は世より隱れたり。

此母、生前の名を、メレー、テー、ヒル、ウイラードと云ふ

左れど、一般に人の尊稱するは、母ウイラード、又はマダーム、ウイラードにてありき。

其一生の事業は、地中に天來の靈水を竄入せしめ、巖を割り

、木の根を潤ほし、到る所ろに行き渡り、以て異日地上に迸ばしり出るの準備を爲せるにあり。而して其の迸ばしり出でたる快泉は即はち万國婦人禁酒會頭たるフランセス、ウィラードの事業なれば、此事業の天日にかゝやぐを見て、彼の事業の沈々として、地の下に竊む所以を考ふべし。

一と度び彼の母に接見したる人は、其の猛けぐしくして創意に富める強き心、及び獨立にして物に覊されざる堅固の德操に感ぜぬものはあらずとぞ云ふ。其風采相貌を察するも大方は然なりと推し測らる。宛然これ大政事家又は大主動者の姿にして、威風凜然たり堂々たり、明らかに其凡ならぬ聰明叡智を現はすが如し、骨格は、古への品高きピウリタン（清教徒と云ふ米國正義の祖先）の家の宗より遺傳し、稀なる強壯と清楚の潔裝とを有てり。蓋し、明哲、獨立なる思想に併はするに、確固にして又迅速なる意思と、身躰上及道德上の勇氣とを以てするもの、今の世に於て之を求むるに其人固より多からず。而して彼の女は優に之を備へたりと云ふ。好く彼の母を知れる某、曾て言へらく、われは久しく彼人に心易けれど、彼の人が恐ろしと言ひ又た感じたるとを曾て見聞せしとなし、通常女性を驚ろかすと云ふ、獸物、強盜、深夜の獨りありきの類ひも彼人にとりては一笑の種なりと。彼の母生れ乍らにして、此の勇猛の氣骨を得、之に加ふるに天來神聖の恩寵を以てせしかば、死と云へる最后の大恐懼、其上に臨み來りし時も、彼人は最と穩かに之を迎へ、敢て暴なるにあらず、極めて嚴肅にして平和に其招きに面應したりし。たゞ恐れたるは、人が之を憂ひまじきとにのみありしと見ゆ。最後に曰く、人々、悼み玉ふな、万事可し、妾は今ま逝かんとす、と。

彼母は、偉人傑士の言論を聞き、其風采に接するとを此上なく樂しみとせられしが、「吾主」と呼びて推尊せしは、クリストの外にあらず。年壯んなる比ろ、フィネー（著名の傳道師）に接し、太たく之に服し、少なからぬ感化を受けられたれど、獨自一己を沒して人に心醉する質ならねば、神學及び傳道上の方法に至る迄、之に倣ふとはあらず。優に一己の見識を備えて、早くより奴隸廢止、飲酒禁制、女子高等敎育、等の問題に贊成の意を表したり。而して、躰育を重んじ、ホームを大切にし、宗敎上の意見を廣ろらかにし、尤とも敎育と云

ふことを、尊とみたり、其の理想は太はだ高く、人世に於ける希望、及び信仰極めて確固なりしかば、自己も人も、其の天受の長所を成べく十分に發揮せんとするの精神熾んなりき。故に、其子女を刺激し、奬勵し、尤とも熱心なる盡力、尤とも價値ある大望、尤とも高尙なる德操、尤とも偉大尤とも仁惠なる希望に達せしめんことを、只管らに期せり。

以上の文によりて、彼母が何如に猛々しく、何如に高烈なりしやを推知することを得可し。左れど、彼女は單に勇猛凜烈ありしのみならで、亦藹然たる、一片恩愛の和氣、其風采の上にも、其品德の裏にも充ち滿ちたり、彼女は母の如き愛を以て惣ての人の上に臨み、一と度び手を握りたる人を懷ひより忘るゝことなし。彼女の下婢下僕は其主人を慕ひ、今や尤とも深く弔歎する人の仲間となれり、彼女は實に多くの時間を掛けて、平素彼等を敎育訓練せしなり。彼女の氣質、根本より慈善的にして、情けに深く、嘗て一と度だも他人を悪しく言ひしことなし、又恐らくは悪しく感ぜしことなからん。三十年間、彼女と親しめる或人の曰く、彼人は一分間にても、人間と云ふものに對し悪感情を有ちしことなきが如し、彼女には恐悲と云ふものゝ起り得ざりしが如し、彼女に對し害を爲せしものを感ぜざるや忘るゝや、毫も意に介せずして均しく之を善くもてなすと。

彼母は、惣べて美しきもの善きものを愛せり。たとひ自己と職業傾向などを異にする人にても、其業の善きものには、悉とく深き同情を寄せたり。其の世に對する思想の確固不拔なると共に、其神に於ける信仰は最と幼なうして、信仰堅固にして、神の王國必らず此の地上に成立つべしと確信せり。其來世と永遠の生命とを信ずること純粹にして些との缺を遺さず希望を重んじて懷疑を斥ぞく。かつて若き傳道師に告げて云く、君もし希望を有せば、之を人々に分け與へよ、君もし疑を有せば、之を心中に秘め置くべし、何んとなれば、人々は既に餘るほどの疑を自個の心中に懷けば也。と、

彼母は今や其信仰せる來世に向ひ、永遠の生命の途に上りたり、平素、愛吟せる歌は、

I'm Pilgrim and I'm a Stranger,
Ican tarry, Ican tarry but a night"
"Lead, kindly light, amid the encircling gloom
Lead thou me on"
"Gently, Lord, O gently lead us."

とゞまるも只一夜のみ　われはたび人
やどかるも只一夜のみ　われは異國人
小暗き曲路たびすれば　ひかりてらして
みちびきてよヲー吾主　いとをだやかに
みちびきてよヲー吾主

而して、禁酒事業の朋に與へたる、其の愛吟の撰詩の初句は

"There are lonely hearts to cherish
While the days are going by."

慰さめんさびしき心いえぬ間に
日は追ひ／＼てすぎてゆくなり

以上、マダム、ウイラードの永逝に對する一篇の所感は、即はち、現在せる世界婦人禁酒會頭フランセス、ウイラード女史の人物德操を寫せるものに均し。母は逝きて其子存し、源かくれて、流今や滔々として響く、女子を生まば當さに、フランセスを產むべし、此フランセスを遺して、和樂として天の國に旅びす、母ウイラードは幸福なりと言はん。何ぞ之を悼むことをせんや。

右の一文はユニチン、シグナル雜誌に負ふ所多し。玆に謝意を表す。

講述

齒牙生理の大意

愛水生

齒牙は消化機關の門戶にして上下顎骨各十六枚を羅列す各自其形狀の異なると併植する位置の同じからざるとに由て各其作用を異にすと雖も概して云ふ時は食物を咀嚼糜爛し津唾の混和によりて嚥下し易からしめ胃腑の消化力を助くると一は音聲の調節と顏貌の整理との一大機能を有するものなり今音聲と顏貌の點にて云はゞ

犬齒(俗に糸切齒と云ふ)は口角の直後に位するを以て大に顏貌の美を助くるものとす故に一に笑齒と云ふ（容顏美なりとも齒牙傾倒するか或捻轉するは恰も夜叉の憤るが如き狀あり）

咽頭より口外に發する空氣は前齒舌唇の恊働にて始めて言語を調節するものなり故に前齒脫落せば言語澁滯して聽者をして其不快を感ぜしむるのみならず其人自ら肺の疲勞を覺ゆるに至らしむ其他談話中津唾を噴出するの醜態を來し傍人をして顰蹙せしむるに至る殊に寒冷の空氣は直接に喉頭及び氣官

を刺戟し爲に加答兒症を發し易し又臼齒は臼齒たるの名に負かず大なる咀嚼面ありて溝を以て數多の隆起を分つ故に能く食物を磨碎す是又脱落せば胃に直接の關係を及ぼし不健となるものなり

齒石

世人屢々齒の疼痛を恐るゝもの多しと雖も齒石鬱積するより誘發するとを知るもの甚だ稀なり且つ齒牙を清白になすは容顏の研醜に係るとを知らずして齒石鬱積するも敢て心に介せず遂に不測の障害を釀し齒牙を失ひ而して天然の美貌を害なふに至る豈に歎ずべきの至りならずや世の女子多くは衣服其他の裝飾品に注意を加ふるに齒牙を清淨潔白になすを怠るは笑ふの甚だしきものなり

齒石の色澤、硬軟の性質は天稟により異なるものなり蓋し全身の健不健に於ては大關係あるものとす齒石は土質及動物質より搆成す而して燐酸石灰其主成分なり脂肪の小量も又成分の一たり或は殆んど白色を呈するものあり緻密の度に於ては異なりと雖ども齒石の硬きと齒質の如きあり又軟質にして指爪を以て容易に剔去するを得るものあり齒石の種類に依りては甚だしく齒頸に密着し或は齒根の尖端に達し爲に齒牙固着を失ひ齒槽を消耗し其根部をも露出するに至るとあり齒石は齒牙の實質には傷害なしと雖も其存在に依りては屢々間接に大害を與ふべし即ち著しきものを擧れば口腔粘膜の變狀、齒槽突起の破壞、齒牙の弛緩、齒齦の出血、全消化器の不良、惡臭の呼氣、加答兒症、咳嗽、鼻疾の諸種、耳病、頭痛、鬱憂症等往々齒石の鬱積より誘發す又齒石を永く放置するときは齒齦糜爛し齒牙を摩擦せる際甚だ疼痛を感し爲に齒刷子を用ひる能はざるに至る故に自然口腔を清潔になす事を得ざるべし或人曰く齒石堆積により惡臭ある汚物を分泌し呼氣をして堪へ難ぎ臭氣を發せしめ爲に嘔氣を催し甚しきは室内の大氣をも汚穢せしむるに至るべしと論ぜり豈に畏れざるべけんや齒石元より自らとり得らるものにあらざれば一ヶ年に一二度は齒科醫に就き齒石剔去術を乞ふをよろしとす

齒疾病の起因及其豫防幷に注意

齒牙疾病の起因は齒の組織の漸次軟化し分解するより始るものにして其源因は先づ酸の作用最も多しとす齒の組織に欠乏せる點あるか口内の粘膜に疾病あるか又は全身の健康ならざ

る時は口內粘液膜は酸を分泌すれども極めて少量にして其酸氣又極めて弱く「アルカリ」性は唾液と混じ直に中和すれども粘膜充血するか或は焮衝を起す時は分泌する粘液其量と共に酸性を增し漸々侵蝕を逞ふし窩をなし穴洞を作り終に根部をも破壞するに至る（今爰に起因する處の局處病と全身病とを掲げて詳論するも普通の人には了解せしむる能はざれば略すべし）只だ齒牙は勉めて淸潔ならしむる事肝要なれば少くも一日に一二回は齒刷子を以て啻に前面のみならず齒刷子の達し得る部分は內外ともに注意して之を洗滌し又勉めて食物の分子を嵌入せしめざるを要す齒磨粉は房州砂の如き物質より製造したるものは用に適せず蓋し是等は齒牙を白くなす事を得れども齒質を磨りへらすの害あるが故に「アルカリ」性の軟柔にして唾液に溶解し易き物質を撰用すべし爰に注意すべきは熱湯或は冷水は齒牙の刺戟をなし又酸性の藥劑を服用したる時は直に水にて含嗽すべし是等は齒痛を引起すものなれは之を避けざるべからず

世に齒拔きと稱するものあり彼齒科に就きての智識あるものにあらざるが故に拔くべきものと拔く可からざるとを識別すること能はず只だ患者の請ひに應じ力らに任せて拔き去り齒齦槽を傷ふのみならず、種々の病症を引起さしむるが如き事屢あり又入齒師と稱するものあり是れ又齒拔に劣らざる無識者流なれば病症を鑑別するの識なく防腐充塡の方法を會得なすにあらざる密かに劇藥を私用し華美に門戶を飾り器械を閃めかし言を巧みにし患者を瞞着し懷中目あてに金銀の充塡を試み高價の料を貪り生活するもの多し是等の徒は世人を欺きて困厄に陷らしめ大に齒科發達を障害するものなれば早く其弊害を除くの策を講ぜざるべからず。

小說

朝顏

手習屋の主人A.O.作

菊地（一回）

我れ海軍中佐の孫と呼ばれて黃金のエポレットを掛くる日もあらんか、又は落ぶれて賤しげなる人とならんか。日々小學校

より歸りて机に向ひ書を繙きて讀み得ぬところあるときはさま〴〵の思ひの胸に滿ち來るなり——あるは海軍兵學校へ入る試業に及第せずして望み失ひたる人となり、あるは既に學びの業に終はりて船路に立ち出づる日我がいと〳〵親しき人の許へ袂を分ちに行くことなどを思ひ出づ。

我は孤兒なり。年四つの時父は病の床に就きたりしが醫師の業も叶はずして遂になき人の數に入りければ母は常に我をはげまして今幼き時より數學を尤もよく學びて後には必ず海軍の士官となりて祖父の孫と呼ばれよと敎へぬ。

我がいと親しき人と云ふは苗代町の菊地房子と云ふ我より三年の妹なる少女なり。

菊地は我が家と緣邊にて我が父は彼が父より年上なりしかど互に睦しくありしと云ふ。又英吉利の同じ大學にて學びたりと。我が父は世に出づる心はつゆ計りもなかりければ家も富みゆたかなるに至らざりしが菊地が父はこれとうらはらにて業を卒へて國に歸り仕へに出でたるが公けの務を勵みたればにや位も祿も年々にのぼりて今ははでなる生活をいとなむやうになりき。されば後々我は房子に下げしまれぬやうに必ず花々しき海軍士官とならんと思ひいさゝかも撓みなく學び習ひけるにぞ漢文などはいと能く讀みたれば菊地の父は折々我をほめて己が子のやうに扱ひぬ。

我が母は菊地が幸ひある身の上を語り出づる度に父が仕合せうすきをなげかしと思ふと見えしはこは我が心づからにや何となれば我は彼がかく時めくやうになりしことを羨やましと思はるゝこともありければなり。されど菊地が我を愛するこそ嬉し二夜三夜も我家に歸らで遊び居ることもありて房子と打ち連れて花園の花をつみ又ジヨンと名づくる老いたるむく犬を引きて遊び歩行きなどしぬ。

房子は美しき少女にて又我を好きければ少しく我が氣にかなはぬ事あるも其心に違はでもてなしかしづきたり。されどなげかはしき事もありし或は彼が父母と花を見になど伴ひ行一日彼がカナリヤの雌のとび去りたるまゝ歸らざりければ彼は痛くかなしみし「房子悲しみ玉ふな。烏にでも捕はれたらん悲しみたりとて歸へり來るものならねば彼が記念をのこさん」とて籬の陰に小石をあつめて塚を築き碑として細長き石を立てぬ。彼と我との幼き時の交りは總てかゝる事共のみな

りけり。

御伽ぎ　（二回）

日は今西の山へ沈まんとして黄金の如き夕照廣き郊にみつ。人は見へず、我れ唯一人田の畔道を飛び走しる。彼が待ち居らんと思へばなり。漸く籬の見ゆる所まで來れるに門に立つ二人の人あり近きて見れば房子と小間仕とにて此方に來る者は我には非ずやと思ひて見て居たりしなり。彼が手を引きて内に入りしに我が時に後くれしを恨みて居たると聞きて嬉れしと思ひぬ、斯くまで彼が我に馴めるかと思ひてなり。

「ア、走り來にければ息苦し。我が母なん今日は外に出でたれば其かへるを待ちて居たりし間に遲なはりし。君が母上も我が來るまでは待ち居玉ふならんと思ひしに早や立ち玉ひしや？」「汽車の出づるは四時なるものを」と小間仕答ふ。「それとは心付かざりし………されば我れ父上に見へて來ん」と云へば房子先に立ちて其が居間に至り女跪きて襖を明けしに机の上に横文字の大なる卷を繙き見てありし。我等の來れりとは知りても猶しばし見てありしがよう〳〵顏を向け親父めきたる風にて「先き程より房子が御身を待ちてむづかり居たりし」とのみ云ひし「母の午後より外に出でゝ在らねば歸るを待つ間に遲なはりぬ」と答へたり。又襖を閉ぢて歸り來ぬ。

小さき居間に我等三人は寄り集ひけり。にはかに寒き秋の末にて庭の萩尾花など風にぞよつく音して垣の外にてヂヨンの高く吠ゆる。大鉢を圍みて坐はり房子の顏見れば目の邊り赤めて居たれば我は之を慰めんとて「もはや母上は彼處に着きて夕餉の後さま〴〵の話して居玉ふならん。明日房子のために如何なる家土產を買ひて歸へらん、又房子は今ごろ何如にして居るならん、我を戀つゝ泣き居るやも知れずなど噂して居玉ふならん」。「否々………母上は我を猛き人なりと思ひて居玉へば」「されば今泣しは誰ならん」。房子は袖もて顏をかくしぬ女は見て笑ふ。「いざ我れ面白き話をせん。悲しき話嬉しき話恐しき話いろ〳〵知れり」。「可笑しき話こそよからめ」と房子云ぬ。「昔々一人の法師ありけり。或る夜人の許へ本を借に行きぬ。恰も今宵の如き夜なりけん、かすかなる三日月山の端にかたぶきて雲井の空を雁金鳴渡るを見て秋も暮になりけりよと思つゝ行きぬ。歸る時は盡く暗になりて恐かりき」。

九

又ジョンの吠ゆるに小間仕は障子明けて雨戸のすき間よりのぞき見し。房子も我ものぞき見たるに暗にて何をも見えず遥かに田の畔道を提燈携へて妙圓寺の方へ行く人あり。「それから」「法師ある時人に聞きけるは奥山に猫又と云ふ者ありて人を食ふと云ふ、こゝらは山にはあらねど猫の經上りて猫又になりて人をとることもあるはと云ひたりしを思ひ出で丶怖がりつゝ歸りける………。又ジョンの吠ゆる。「さうしてそれから」。法師は小河の橋の上に來たりし時その猫又つと足元へより來て飛び付きつ首のほどを食はんとすれば魂も消えてふせがん力もなく河の中へころげ込みたり」。「ホホホ」。「助けよ猫又、助けよ、助けよと叫ぶに家々より燈火もち來りて見れば己が飼ひける犬の主人を見て飛び付きたるなりけり」。「ハハハ」。「こは母上の話せし我がいと面白く可笑しと思ふ話になん」。

「オー我は數學をさらへることを忘れてありし」とて風呂敷解きて鉛筆紙などを出しぬ、この時房子は小間仕が膝に倚りて睡むたげになりて居たるが「君は何時も數學のみを骨折りて學ばんとの玉ふは何故にぞ」と問ひぬ。「君はそを知らでや我は祖父の如く海軍中佐にもならんと思へばなり。我は大なる船に乘りて遠き洋に出で大風吹きて覆るとも命をば惜まじ千尋の海の底に沈みて死ぬとも」。房子は目を覺しぬ。「我は白波に漂はされて死なんとき我が友なる房子は如何にして居玉ふにやと思はん」。「アヽさる悲しき話を聞かせ玉ふな。又必ず船乘りなどにはなる勿れ」。

、、、、、、、

此後も我が船路に出でんと聞く毎に彼は悲しと思ひたれば又之を語り出でず、此志は止めつと答へにし。されど我が海軍の花々しき軍人となりたらん日には如何計り我を賞むるならんかと思ひぬ。

かくて我れ年十七になりて海軍兵學校へ入る試驗を受けたるが差支なく及第して入校を許されぬ。其廣島へ行くとき房子はくれぐれも我が恙なく勉めはげみ業を卒りて歸り來る日を待つと契りけり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文藝

○文學專門

みどり

われは文學を專門とせんとす、と言ひて、而も文學を尊とみ崇めず、藝妓が三味線に於ける、太鼓持が扇に於けると一般の心持にて、之を或意味に於ての玩弄物、他の意味に於ての世渡り道具と爲さんとする者あるを見るときは、不快言語に絕する也。眞誠純美の文學の目的は、世の人の風雅の心を長ぜしめ、其思ひを潔よくせしめ、天地に仕へるの愉快を感ぜしむるなどにあり。然るに、自からの心潔よからず、自からの心天地に安んぜず、自からの心眞との風雅を覺らずして、何如で能く讀む人の心に此等の趣きを致さんや。あゝ、蕉翁、西行逝きてより、一代の風雅を起さんとする大熱心ある人殆んど絕えぬ。語ばを寄す、當世の小才子、何んすれぞ、局促どして短篇に俗容の喝采をいのり、敢て大願を發して、斯民無風流の念を一新せんとはせざる。文學を專門にすとは、實に此の般の意義にはあらずや。

○美人となるの法

女性が美人となるには、心に美の念いを納るゝにあり、之を吾黨の法とす。左れど、太田錦城の言ひけん如く、形體の餘り醜きは、心よしとも、ちと有がたからぬもの故へ、多少世俗の美人となる法を參考にするも可なるべし。左は、西洋人の玉手箱を開きて譯出したるものなるが、折角、首の細きが好きを、わざ〳〵太くする法もあれど、こは東西の風の異なるとして一笑の料となす可し。但し西洋ずきの人は之も亦宜しと言ひ玉はんか。

美しきを好むは人の心の常にして其力ある驚くべき事あり、小供は髮を梳る事を好まざれとも、若し梳づれは美しくなるべしと言はるゝ時は喜んでなすへし。近頃に至りては人の目鼻だちまて直すと言ふ醫者あれど、夫は吾等の知り得べき處に非ず、今わが此處に擧ぐるは誠に容易くして又實際の益多き事なり。只たへず行ふと否とに依りて、結果を得るもあり得ざるもあるへし。美しくなるの難きに非ずして其法を長く續くると否とに在るなり。

初めに言ふべきは、車、馬車などに乘りたる時の心得なり。車に乘りて肩を後に依りかゝらすなどは見苦しき事なり、頭

を始め躰を正直ぐに立て、胸を廣くし、腹部を前に出さしる樣注意し、頭を重々しく持つへし、左らば頭も躰も釣合好くなるべし、頸の細き人は、固きカラーを着くへからす、湯にて頸より胸のあたりを洗ひ其上を良き油にて摩り拭ひ置くべし、但し夜眠る時などは拭ひしあとの濕ひ居る樣なし置くべし、斯くして倦りなければ、細き頸も漸々に肥ゆるなり。腕に圓味を付けんとせは、毎日箒を取りて掃除すへし然らざれば、毎日ブラシを持て百回兩手にて頭の毛を摩るを良しとす、手の爲め髮のため兩得とあるなり。手の赤き人は、務めて熱き湯に足を浸して暖むへし、可成的手を水に入れぬ樣になし、レモンの皮を以て手を摩るへし、又手を洗ひたる後にレモンの汁とグリスリンとを混じ、夫にて手を摩るも好し、色の白く美しくなる事確なり、總して婦人は手の色の白きを良しとするなり。腹部の大ひなる人は、常に直立する事を務むるは勿論、尙ほ次の如くすへし、即ち一本の足にて立ち、他の足を前の方に差し出し、其差し出したる側の手を眞直に垂下し他の側の手を上に差し上べぐし、而して手を擧ぐると足を差し出すとは同時になすべし、斯くの如く、始め右の手を擧げ左の足を出せば、次に、左の手を擧げ右の足を出し、絶へず運動する時は、全身發汗して終に肉を削りて細くなし得べし。

脚囊を好くせんと欲せは、爪先にて立ち一二三と五まで數へ舊に復し普通に立つべし、斯く二十回づゝ朝と夕とに倦りなくすれば、脚囊は漸々強くなるなり。凡て此れ等の事は度を過すべからず、適度になして永くつゞくを好しとす。皮膚は頭の上より足の裏に至るまで淸潔になすべき事勿論なり、每夜寐る前に顏頸腕などを暖き湯にて洗ひ、朝は海綿を冷水に浸し夫を以て躰を摩り後西洋手拭にてふくへし。外出の前後には決して顏及ひ頸などを洗ふ可からす、皺を來たすの恐れあり。屢々眉に皺寄すべからす、終にたへず皺の寄る樣なりて甚だ美を損するものなり。時として年よりは老ひて見ゆる事あり其節は左の如くすべし、温かき湯にアンモニヤ三滴、硼砂少量、糖酒少量、樟腦數滴、と幷に香水を入れ混して顏を洗ふべし、一年程若く見ゆる樣なる事もあり、顏を美しくするには、毎夜牛乳十二弖とレモンの汁とを混じたるものにて洗ひ、其まゝ皮膚の上にて乾かし、朝に至りて微温湯にて

洗ふべし、雨水を用ゆれは殊更に宜し。眉毛は好く摩り置き頭の毛は塵の止まらざる樣になすべし、頭の毛を清潔になすには玉子を以て洗ふを第一とす、玉子は髮を生長せしめ頭の皮膚を清くなすものなり、但し玉子洗は一ケ月一回以上に登るべからず。頭痛其他の病氣にて毛の抜ける事などあれば斯くすべし、機那六十「グレーン」、ホイスキー或はブランデー六℥、グリスリン二℥を混じ、毎夜頭の毛を摩り洗ふへし、斯くする事十日間にして中止し二週間程休みて後又十日間つゞくるなり、又別法はグリスリン一℥、糖酒一℥、茶十二℥を混じて一夜置きに洗ふべし。皺を治するは指に巴旦杏の油を付け強く皺の處をたゝき皮膚の柔らかくなりたる時、其皺を引き延はすへし、其後同じ處を撮み捻る樣すれば皺は漸々失するなり。

左れど心の美しき程貴き者はあらじ、婦人の心は必す顏に顯る、心美しければ顏も從て美くしくなるものなり。某の子が其の老ひたる母を擧めて「あゝ母よ如何に美しきかな、母上は天人の如く麗し、恐くは神の母ならん」と言ひし事ありと、此を天眞の讃辭、老人の心を得たるものと云ふべし、若き婦人にして此の賞讃を得んか、此れ無上の榮譽ならずや、詮すれば心の美しきこそ最上の美なるべし。

案山子の含咏草

卯花　高原

、ほの〴〵と田川の水にかけ見えて卯花月夜いまあけんとす

評よろしされど明んとすは未明けさるなり此時うの花はほのかに見ゆべきもかけは見ゆべしや

、薄月夜にほふもあはれ夕くれの一村雨の露のうのはな（はれし夕の庭の）

評露のうの花不都合なり　市村

、水鷄なく野川の月ようの花の涙にいたくも更にけるかな（かけさむきまで）

水鷄　高原

、月清く田川の末の水車見ゆるあたりにくゐなくなり

評景色おもしろし

、くゐな鳴水田の面のうす煙ほの〴〵見えて夜は明けんとす（鳴のたつかた山澤）（水）

評水けふりは空氣の寒き時即ち霜のふる頃少し溫を得てのほるものなり夏は覓最さる事にや姑く點をもらしつ歌からはよろし再考秋末なら可ならん

、水鷄あく澤田の水にかけ落て螢たつ山の月のさやけさ（見えて）

評夏月の題なり

待子規　　全

、、まづ人の初音きゝつと告しより待はあれたるほとゝぎす哉

全

、、ほとゝぎすなくべき山のけしき哉月も高ねの松にかゝりて

評點者幼時の詠に子規初音も今かなのり出んけしきの森の有明の月さはいかゞ

子規　　全

、、神がきの杉の葉ごしに月落て小暗きみやになくほとゝぎす

評嗣頭子規よくも風景を描き給へり唯宮の一嗣殘念そは或は宮中の心もあればなり

盧橘　　神谷

、、たち花のかほりに夢のまくらして住む山寺の主ゆかしき

市村

、、やどるべき人さへもなき故郷の花橘につきぞにほへる

薔薇　　高原

、うはら散る田川の末のいせきには月の匂ひも浮ぶなりけり

江間

、かきこしの郷のうはらおく露に香るもうれし夏のあけぼの

雜録

沙翁曲中の戀人（其二）

城東生譯

沙翁曲中の戀人は又其境遇と位置とに依りて、其人品と愛情とを異にす。ジュリエットの戀の和熙にして且つ圓滑なるは之れ伊太利風なり、之に對するロメオの直截なる切愛は、其好對とや云はん。兩個は其情の高度に達し終に互に相見る能はずは、生も亦樂しからじと思ふに至りしが如し、蓋し之れ全世界中尤も單純なる戀人を理想せしものか。翁此の種の戀を寫す只僅かに一回、其適當なる動作と位置とに於て之を示せしに過ぎず。若し夫れ斯くの如きをして英國の舞臺にありし事とせんか、翁は敢て之を押へざりしならん、之れ實に朝夕英國に起る常事なればなり。ミランダがフェルヂナンドに對する淳朴なる愛情に至りては又其趣を異にす、ミランダがフェルヂナンドの手より薪木を奪はんとするの狀を寫せし畫あり、此の一擧は以て如何に兩個の親愛の飾らざるかを見るに足るべし、此れは皇子にして侚婦女の爲めに賤役を顧み

ず、夫れは一婦女にして尙重を負ひ他を助けんとす。此の兩個に於ては彼のジュリエットの直截なる燃ゆるが如き熱情を見ざるも、其の內心眞情の切々たるを見るべく、其の潛匿せる情の量は彼に比して敢て劣る處なからん、翁は此の曲を以て戀の不變の理を示せし者なるべし。

之に反して、ビートリスとベチヂックとの間に於ける情緖を見ば、如何に兩個の前條擧げたる戀人と相違するの甚しきを知るべし、兩個の間互に戀を顯すの狀絕へてなく、彼一言も愛の言を與へざれば、此も亦敢て望む事なく、口を開けば常に辨難に終る、然れども終に相愛し相慕ひて偕老同穴、互に死處を共にせんとするに至れり、而も尙之を口に誓ひしに非ず、以心傳心にして外に顯れず、夫のジュリエットの戀と正反對なる者か。而してビートリスのヒーローに對し、ベチヂックのクラウヂオに對するを見ば、素より情なきの人ありと言ふを得ざるあり。「ラブス、レーボア、ロースト」の曲に於けるロサリンは、此のビートリス（即ち「マッチ、エドー、アバウト、ナッシング」曲中の戀人）と同種のものにして彼は此の前年なり、とは批評家一般の說なるが如し、而れども此の兩婦人決して同じきに非ず、畫工の之を寫せし樣を見るも其然るを知らん、即ちビートリスは偉大にして美なれども、風采の宜しき者に非ず、ロサリンは中丈にして過分に肥滿せず、頗る風致ある婦人にして其性質よりするもビートリスの如く機敏ならず、且つ彼の如く喧嚣なる婦人に非りしなり。

尙之より一步を進めし冷淡なる戀人を見んと欲せば、夫はカセラインとペトルシオとなり、讀者若し注意せざれば、必ずや、其內に戀を見る能はずとの斷定を下すべし、知るべし其戀の冷々たるを、之を書いてカセラインがペトルシオの膂力に驚きし狀を示せし者あり、此の書を見る者は其の喧嚣なる婦人たりしを想像し得べし、蓋し此の種の一僻ある人物に於て尙婦人の資格とも云ふべき、人の母たる品格を備へたるを認め得べきは又翁の人を寫すの濫ならざるに依るならんか。皮相の觀察を以てすれは、眞に其戀を疑はざるを得ず、然れども若しペトルシオが終に彼の心を得るに至りしを見れば、兩個の間に愛情の在りし事疑ふ可くもあらず、ペトルシオがカセラインを愛するに、戰場の掠奪物を愛するが如く、カセラインがペトルシオを愛するは其の一個の主長たる資格ある

を以てなり、抑々彼等の如く一回の情話をも爲さゝる戀人が如何なる理に依り强大なる力を以て互に結合されつゝあるやは、少しく世故に長けたる人の必ず解する處なるべし。

法庭に於けるポルシャを見るに、其風采恰も嚴然たる法官たるに恥ぢず、讀者若し彼が戀人に向ひ己を謙退して數ならぬ身なりと告げし條下を記憶せば、必ずや法庭に於ても尙纖弱なる婦人を見るを望みしなるべし。然れども之を考ふるに、シェクスピアは兩個のポルシャを寫せしが如し、彼の一面はパッサニオに對する謙遜なる戀人なり、他の一面は即ち其法庭に於ける賢婦なり、其謙と賢とを書きし結果は終に彼をして此處に至らしめぬ。而して謙讓の美斯くの如きに至りては翁の作中他に求むる能はざる處なり、之に對するパッサニオは叉自ら謙してポルシャに配するに足らずとせり、是に於てか兩個の謙讓の美を寫す極れりと云ふべし。

ロサリンドとオルランドとは之れ即ち女性の男性に勝れる塲合とや云ふべき。ロサリンドは尤も適當なる資格を備へたる成年の婦人にして、以上に列擧せる婦人中尤も勝れたる模範たるべき者なり、オルランドは一個の少年のみ、然れども其の不幸なる少年たるは、彼がロザリンドの愛を受けし處なり若し此の人にして成年有爲のものたりしか終に此の婦人の愛を受くるに至らざりしならん。

吾輩はシェクスピアが曲中の戀人に特色ありて、他の及ぶ能はざる處ありと考ふるは、其戀人が個々の特質を有するのみに非ずして、又凡て各々一個の人間たる處を顯すにあり、彼の極端なるロメオ及びジュリエットに至りても只其戀のみを寫せしには非るべし。ジュリエットの外凡て曲中の戀人を見るに皆其人種の痕跡を止めず、全く世界の人間なる處顯れたり、即ち人種の區別を脫却せる完璧なる男性と女性とを見るべし。イモージェン、シムベリンの如き殆んどブリテン人の氣質を止めず、オセロの如きは、本國の黒色其面に顯れたれども、人若し之を知らずして單に動作のみを見なば只一個世界の人を見るのみにして何れの國人を寫せしやを知るに苦むべし、而して之に對するデスデモナに至りても亦然らん。英國の批評家は言ふ、カセラインに於て、イモージェンに於て、ミランダに於て、ロサリンドに於て、皆英國婦人の風を見ると。然り、必ず其理あるべし、然れども余思ふ、此等の

井伊掃除頭直孝大坂冬陣に物見二人をやる。雨に濡て歸りければ、様子を聞きて、則ち着られし小袖二ッを脱ぎて、兩人にやられける、さて安藤帶刀直次へ小袖をもらいに遣し、我等かやうの事にて、着る物二ッながら家來に遣し、着替無之候とて、帶刀の送られし小袖を着て、革袴にて權現様御前へも、度々出られけるとぞ………

とあれば、三十万石の大名にても(勿論戰亂中にてはあれど)かゝる形状にてありしとは、今日より思へば、殆んど信ぜられぬほどの次第ですが、然し實際そうであつたのであり升う。

兒藍

吾が宿の花

第六回（下）

若松しづ子

ルーセが出發生てする方法は人知れず其時備わつて居り升た。それといふは郵便役所の窓側に一通の手紙の形になつて、値うちもなき他の手紙と弁らんで一向平氣で居り升た。二三日は人の目にも觸ず、コッソりこゝに滯こつて居り升たが、その中右左りの朋輩たちは揚然として持ち去られ升した。其夜總領のジヤンが夕ぐれ家に歸らうとして、郵便局の前を通り升と、この頃は見るが稀れな父にあてた手紙があるので、早速引獲つて歸るさ、と見カウ見、差出人は誰と考へても、容易に推量さへ出來ませんかつた。それで、大風の如き威勢で家へとび込んで、

おとうさま、サア、手紙、

父を眼鏡を掛けて、熟と手紙を驗案いたし升た、先づ消印を改め、手跡に眼を注ぎ、封臘を考へ升た。かういふ塲合に珍敷物好な子供たちが立閉り、差覗きなどして、心の中に氣の揉めると、いつ開かるとかと」いふて居升と成人は殊更手間どつてぢらすとはよく有るとです。併しとう〳〵封は開かれ一通り子細有り氣に讀れ、捲反して、讀直され、終にたゝまれて家内用の大きな聖書の內へ挾まれ升た。此様子を見ると尋常一扁の用向ではないといふと丈は慥でした。殆ど開國以來祖先の傳へ遺した古風なる此重寶へ卑俗の書簡を綴る如はジヤント主人の斷じて爲さぬとどもでした。さらばとて居列ぶ家族の中に誰一人其の故如何とたづぬるものは有ませんか

つたが、併し何か事が起つたとは誰の胸にもある推量でした。
其夜ハナは二階へ登らうとして二段つゝ跳ながらルーセにコツソリと

アノネ、おとうさまに誰かゞ又五十圓よこしたのかも知れませんネ、五十と五十なら百ですネ。

ルーセは笑ひながら、

オヤ本當にさう?、笑わずと好じや有ませんか、本當にさうなら、いくら重寶だか知れやしませんわ。

必要なものは澤山有升よ、賣買の出來ないもので、

とルーセに窘められて、ハナーは欠伸をしながら

エー、さうですとも、睡眠事なんかネ、

といひ殘し、「ルーセさんに說法されるが嫌だとて大急ぎに床に着き升た。
子供たちが一同寐處へ行き升て、あとは夫婦切になり升た時、グラント主人は妻の手に最前の手紙を渡し升た。妻は急し氣に、少しく聲を立てゝ讀み升た。

拜啓年末に差迫り候に付昨今頻りに出納の計算仕居候と

讀てグランド夫人は小聲に「あの金の催促をするのかしら」

然るに他は措きて先愛兄姉に對し大に負ふ處あるを覺へ謝罪狀を呈するに一刻も猶預す可らずと決心仕候小弟新たに得たる神明の光りに己が生涯を照し候に犯せし罪科の恐ろ敷御詫言申上るだに力なへたる心地いたし候愛する兄上姉上は小弟が發せし輕忽なる言不忠實なる擧動を幸に赦るし玉ふや

實は自身參堂只管歎願可致の處小弟最愛の小女重病に罹り目下苦臥罷在候に付略儀の段恐縮に存候へども寸楮を以て願上候爾來商業上甚だ都合宜敷金融も自由に蓄財も出來候て世に不足なき身分と相成俗世界の歡樂を以て滿足致居候折柄天父は特別なる思召有りて愛兒に此病を賜り小弟の心に始めて憂苦を覺へ申候願くば小弟の爲にも小女の爲にも天父の前に祈念し玉へ小弟には此小女を措いて他に女兒あるなく心を籠めて愛育いたし候者に御座候心切にして言んと欲する處を知らず萬づ御懇察の程希望居候　敬白

アーサ、ホイツテア拜

愛兄姉様　坐下

グラント夫人は手紙を卷き納めて一安心といふ躰で卜息をつき升た。實は夫人の實弟が一朝夫に對して不實なる所爲有つて、以來兩家の間に大隔離を生じたとは夫人にとつて生涯の大苦難で、謝罪狀の來ると共に一生の重荷を下した心地がしたのでした。それで、

サア、これならどの樣な事でも堪られないとは有升まいよ。

と夫人がいひ升た。

モウ時後れだ、今までおまへの苦勞は一と通りでなかつた。それを思へば血が沸へかへる樣だ、

とは夫がいふたとでした、妻はまた、

それよりは多くの天惠を思つて、他のとは忘れやうでは有ませんか、私の弟もよく思へば可愛さうです。責めるとはおいて、憐れむ方が至當と思ひ升。

夫の心は須叟解け升た、妻の衷へても尙聖き悦びに滿ちた顏を見て、決心を音聲に示して、

よし、わしも勘辨する、忍堪してしまわう。此爭ひがめで度局を結んだとを今こゝで神に感謝しようではないか？

いつて、膝まづき、"神に酬恩の祭をいたしました。其後は暖爐の火の消失せるまで夫婦は昔物語りに時を移し、互に始めて相愛した時分のとを思起し升た。グラント夫人は赤子を搖籃から抱き下ろして、床に就く仕度をしながら、

ほんに弟を抱いて丁度此子の世話をする樣にしたのはツイきのふの樣な心地がいたし升よ。

グランド主人は妻の赤子を抱きメて寵愛する樣子を眺めて、何故と己か心にも分らず、急に面白からぬ感を起し、

どふもわれ／＼男子は恨を忍ぶが何より難いな。

人間の心では迚も六ケ敷事ですから、信徒としての心を持つてせねばなりますまい。

と妻がなだむれば、夫は

イヤ、何分心持がまだ全く晴れ切らぬから、サアおまへは先へ床へ這入つて呉れ、わしはあとから行くから

妻は心配さうに、椅子の後ろへ立つて、モソット優敷言葉を聞いて寢處に行かふと思ひ升たが、あとは何の言葉も有ませんかつたから、據なく辭し去り升た。夫は妻の顏の見えなくなるを待つて、立つて兩手を握りつめ、眉を顰めて、薄暗い室内をあちこちと歩み升たが、心中非常な騷動を起して居り升

た。獨り口の中、

ひどいとをしをつた。それが爲に生涯を破壞された心地がする。併し全く赦してしまつた積りで有つた………尊き御神よ、心より彼の罪を赦し得る樣なさせ玉へ。

良心の聲は小さく細く

彼の罪は大なれど、汝ぢ自身の情慾偏僻は其罪を一層深めしに非ずや。汝自身は此一事に於て全く清淨潔白なりと思ふや？

彼が我に對するの罪は我が神に對する罪に比して甚だ僅少なり、

と答へ升たが、今は室内を當途なく歩行するを止めて膝行ついて、心を低くし涙を流して、祈念を凝らし升た、遂に良心は全勝を得るに至り升た。

妻は翌朝寐室の戸を開けて、心配さうに外面を見、

あなたはマア少しもお休みなさりませんでしたネ、

イヤ、夕部は好い晩で有つた。

と答へ升たが妻は變撰を一々見貫いた夫の顔を眺き升て、實に其言葉の通りといふとが分り升た。

それで、私も滿足です。

といひ升た。

家政

主婦の秘決一則

ふみ子

□「私は家を持ち升てから、また纔かにしかなり升んから、至て經驗に乏しくて困り升、が先づ主婦として第一に、心得て置ねばならぬ事と申すは、如何なる事で御坐り升うか。御教諭を願ひたう御坐り升。

○「是は重大なる御尋に預り升。私とても、餘り實驗に、富み升た譯では御坐り升ぬから、御教諭なども申事は、出來ませぬが、折角の御尋で御坐り升から、自分が感じて居り升事の中で、一番大切と思ふ事を、一ヶ條だけお話し申上升う。先づ私の考へ升處では、主婦なるものは、第一に、室家を樂しくしやうといふ事を、常に心掛て居らねばならぬと存升。一躰日本の家族と申升ものは、多く殺風景なもので、うるさい、煩しい、といふ感情をば、何人の腦裡に

も、起さすやうに、なつて居り升。夫れをば一轉せしめて樂しき園といたし、いつも春の如くに暖に、そしていろ〳〵の、奇麗な花が咲き滿ちて、チヨ〳〵と囀る鳥や、ひら〳〵と舞ふ蝶々なんどが、園生狹しと遊び戯れて、坐ろに人世の春は、此園の裡に集められたる乎と疑はしむるほどに、則ち語を更めて之れを申せば、我室家ほど、寛ぎて、樂しき家は、他所にあらじと、家族のものに、思はすやうに致すのが、主婦の一秘決であらうと思ひ升。

□「成程さやうで御坐り升う。然しさやうに、家裡を樂しく、致し升には、いろ〳〵資金が入るで御坐り升う。先づ庭を造らねばなり升まいし、坐敷も裝飾らねばならず、そして音樂なぞも奏せねばなり升ぬから、到底貧窮なる家の主婦には、出來にくい事では、御坐り升まいか。

○「是はあなたの、御詞とも存ません。夫れは形の上の樂に對する事で……………、私の申升のは、物質的に造り成せし、樂園にてはなく、主婦の心の底より彈出せし、愛のひゞきが音樂となり、又其眞情によりて、溢れ出し美しき所作が、百事百物の上に加はりて、いふ可らざる趣味を添へ、如何なる茅屋破窓をも、其家族の人々にとりては、珠玉を鏤めし臺閣にも、勝れるやうに、思はしむる事です。かく精神的に室家を樂園と致し升るには、何の資本も要り升ん、只要する所のものは、主婦の眞情のみです。尤其家々の財政が許し升ならば、分相應に庭園などを造り、室内の裝飾に意を配り、費用少なに、恰好の能きやうに致し、家族の人〳〵の眼を喜こばしむるも、家裡を樂しくするの、一方法では御坐り升、然し一領の衣、一腕の飯にも、眞情が籠り升ぬと、さほど人の感を、動かすものではあり升ぬ、譬喩に引くは、少し異樣なやうであり升が、彼鉢の木と申て、謠曲にも仕組み、又何とか題名を付して、演劇にも致し升が佐野源左衞門常世が、時頼の行脚僧を饗せし時、時頼に進めし一腕の粟飯は、定て時頼の饑を凌がすにも足りますまいし、又爲に燃きし鉢の木も、身躰中を、暖まらせしと申程ではあり升んでしたらふけれ共、時頼は其夫妻の厚意に感じて、永く其喜ばしさを、忘れなかつたではあり升んか、さすれば主婦たるものが、一家の人々に對し、悦ばしき感情を與へ、室家を樂しく致すとも、之れと同じ方法を以つてす

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ることが出來るであらふと存升。

□「成程誤解致して居り升た、夫ならば誰にでも出來升事で………、しかし只今仰の、室家を樂しく致すといふ事は、如何計の影響を家族の上に及ぼすで御坐り升うか………」

○「さやうです、先づ人間と申ものは、誰しも心に、愉悦を感ずることを、求るの思あることは、勿論ですから、平素住居する室家が樂しければ、自然心に滿足致す譯です、殊に一家の主人となりて、生活上の重荷を負擔する良人にとり升ては、他に出でいろ／＼氣力を消耗し升から、家に歸りては、打寛ぎて、休み度ものであり升。然るに若し室家が不愉快であり升れば、自然他に行て、娯樂を求めるやうになり升、一躰家外の遊びと申ものは、必しも淸く有益なるものゝみではあり升ぬ、されば外出勝なる處より、知らず／＼邪道に陷り、靈性上にも、經濟上にも、大なる損害を來すことになるものです、稀には其不快を忍んで在宅する人ありと致し升ても、夫れでは心中常に面白からず、遂に外面の運動に對しても、勇氣なき人となり升。斯の如きは其良人を邪道に陷れ、一は其活氣を消磨さすものにて、誠に恐るべきの事です。

其二は、和樂ならぬ家裡に於て、育ち升た子は、往々其天眞の性情の發達を妨げられ升て、偏僻奇嶠なるものとなる事です、斯の如きとは、子女の生涯を誤らせ、一生を不幸の裡に、送るの人とならしむることであり升から、最恐るべきの事であり升。

其他樂しからぬ家に仕ふる時は、婢僕迄も、其心に不快を感じ升から、自然其勤務も、しぶ／＼に致すやうになり、爲に家事の澁滯や、不經濟を來すことが澤山あり升。又室家が樂しげなれば、平素交際する人も、屢來往して相親しむやうになり升が、是れと反對にて、家內中皆苦き顏を致して居れば、假令用事があつても、成るべく人が來ないやうになり升、然る時は交際上大なる妨げを來すことで御坐り升。まだ外にいろ／＼關係があり升うなれど、其大要を申せば、こんなものです、兎に角室家を樂しくすると申事は、主婦の秘訣として、心得置べき點であらふと存升。

□「まだ外に伺ひ度ともムり升が、紙面のお都合も御坐い升うから、今日は是で………」

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

家兎の飼養法

小言

畜紬子

兎は其性穏和にして甚だ清潔を好み、大層可愛らしき小獣です、之を飼ひまするには養鶏の様に地面も入らず、お家の椽側、上り段の下、上げ板の下などに一寸仕切をすれば、何處にでも飼えます、又飼方には別段面倒や手數の掛ることはありません。食物も亦青葉なれば艸木を撰ばず、大抵何にでも喰ます。必ず豆腐糟など　、そんな贅澤は申さないです。又兎の殖ますることは之に及ぶ者はございませんです。且洋種の肉は中々鶏肉などの比ではありません。兎と申しますと、兎角山師や流行漢の玩弄の様に思ひて、人が重く見ませんが、佛國、伊國、又は濠洲にては都鄙となく戸々數十頭を飼養致して居ります。濠洲より、英國へ輸出致します兎の毛皮だけの金額は、歳々四五百萬圓に昇ります。我國は米國の様に地面が廣大でありませんから、牛羊の様な大なる家畜は澤山かへませんが、豚や鶏より一層場所の入らない、此兎の様な家畜は真に適當です、お子さん方も是非一二双兎子を飼て御覧なさい。ほんとに可愛ものです。私は先年種々飼方に凝りました、至極仕易き法を追々お知らせ申します。

黄金の砂一つ二つ

女護嶋兒集

（六）澤庵漬の色を良くする法

大根を澤庵に漬る時、米糠の中へ粟の糠を混ずれば、黄金色となりて甚だ美なり。

（七）芥子を利かする法

芥子の粉の新鮮なるものを沸騰の湯にて煉り、清き木綿に包み、水に浸し置くと數分間、其冷たるころ之を取出して、擂鉢に入れて充分に擂りて、食物に拌ぜるときは舶來の芥子に劣ることなし。

（八）味噌の酸味を止むる法

味噌の酸味を止るには、餘り酸敗せざる内に、木炭を挿入れ、上部を平にし其上へ油紙を覆ひ空氣の通ぜざる様にすべし。

（九）土瓶を強き火に耐へしむる法

土瓶を強き火に耐へしめんには、土瓶の尻にくすりの塗らざる所へ濃き墨をぬるべし、斯くすれば大概の火力には破損せざるものなり。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

摘要

○女學生の産兒

女子が高等の學問をする時は、虚弱となりて産兒の力を失ふなど云ふ説何處にも行わる。西洋にても最初は謬説切りなりしに、今まは確實なる統計表の示す所によりて、此説を破りたり。我國にては、尚は斯る謬説を繰反す人多し。其の人は左の一表を見よ、表は、大日本婦人教育會雜誌第四十一號より摘載す

女子高等師範學校卒業生結婚及産兒表

（但し次の表は明治十二年三月より仝廿四年六月までのものなり）

自明治十二年三月至仝廿四年六月

卒業年月	卒業生數	已婚者	未婚者	死亡	各人平均結婚後年數（年 月）	小兒生	小兒死	平均一人ノ生兒數	生兒死亡ノ割合
十二年三月	一五	一一	三	一	九〇	二七	六	二、五	〇、二二一
十二年七月	一八	一六	二	〇	八〇	三二	二	二、二	〇、一二五
十三年三月	一九	一五	〇	五	七六	四一	六	二、七	〇、一四六
十三年七月	一五	一〇	二	三	六〇	二二	二	二、二	〇、〇九〇
十四年二月	一七	一四	二	一	六八	二六	一	一、九	〇、〇三八
十四年七月	一六	一五	〇	一	七〇	三三	二	二、二	〇、〇六〇
十五年二月	一一	九	一	一	四七	一二	二	一、三	〇、一六六
十五年七月	一七	六	〇	一	七〇	八	二	一、三	〇、二五
十六年二月	一二	九	三	〇	四八	一六	二	一、八	〇、一二五
十六年七月	一二	一一	一	〇	四七	一八	四	一、六	〇、二二二
十七年二月	一三	九	三	一	四九	一一	一	一、二	〇、〇九〇
十七年七月	一三	一〇	一	二	四一〇	一九	二	一、九	〇、一〇五
十八年二月	一一	一〇	〇	一	四四	一四	〇	一、四	〇
十八年七月	一五	一〇	五	〇	二三	一〇	一	一	〇、一
十九年二月	一六	七	六	二	二七	九	〇	一、三	〇
十九年七月	一〇	四	五	一	一八	三	〇	〇、八	〇
二十年四月	一六	八	七	一	二六	八	二	一	〇、二五
廿一年七月	一一	七	四	〇	二〇	七	〇	一	〇
廿二年四月	四	一	三	〇	二三	二	〇	二	〇

廿三年以後は廿四年六月以後に係ること多きを以て平均をさらず只其數を次に掲ぐ

卒業年月	卒業生數	已婚者	未婚者				
廿三年三月	二一	六	一四	四一			
廿四年三月	二二	一	二一				
廿五年三月	一五	〇	一五				
廿五年七月	四	〇	四				
各項總數	三一二	一八九	一〇二	三三三六			

右表のうちにて十九年よりのちことに已婚者の少きは此年よりして奉職年限を定められたるを以てかく減じたるものと知るべし

批評

○保羅之傳（松村介石君著）

山月子

尊敬の心なき、同情の念ひなき人物批評は、厭ふべきの甚しきものなり、何となれば其人物を誤解すればなり、現今の如き人物批評流行の時は、各自大に戒むる所なかるべからず、恐らくは大人を傷め、英雄を泣かしめん、

警醒社發行の保羅傳は、松村介石君の著す所なり、取りて之を讀むに、其第十章、ステパノの事を記せし終りに曰く、

或人曰くガマリエルは保羅が第一の師也、而してステパノは第二の師也と、

英雄は英雄に感じ、豪傑は豪傑に動く、

と、以て著者が保羅に同情を表するの念、如何に深きかと推すべし、若し同情に乏しき批評家ならば、此處を寫すに於ても、唯其激烈性を現はす爲めにのみ着筆するに過ぎざりしならんに、

讀んで卷末に至れば、曰く、

嗟乎保羅よ　汝は餘り高大に過ぐ、我筆畢に汝を寫すと能はざるなり、願くは小物が大物を寫す能はざるの罪を宥せアーメン

と、以て著者が崇敬の心、如何に篤きかを察すべし、若し尊敬心なき批評家ならば、物足らぬ評論をなし、若しくは誤りたる説明をなし、却て自ら得々たるものありしならんに、

たゞ著者此崇敬の心あり、同情の念ひあり、以て此基督教的偉人物を寫すべきなり、余は保羅の爲めに此傳現はれたるを祝し、青年の爲めに此著出でたるを祝す、」

立志之礎、論古龍、共に松村君の著、世を益すると多し、保羅之傳に至りては、前二書に優りて、人を感じ世を動かすべしと信ず、余は敬愛する日本の同胞が、嚴肅敬虔の心を以て、此偉人——保羅に接せんとを望む也。

白表女學雜誌に撫象君の評出づべし、余は評せしといふに非ず、たゞ感を述べしのみ。

通信

●三重縣通信

三重通信員

●三重私立女學校　殆んど亡びしかと世人に思はしめたる同校は、維持の方法つきたるにや、こたび生徒二十名募集せし處、募に應ぜし者僅に四名なりしとぞ。
●四日市婦人會　同會は、九月十一日、四日市高等小學校樓上に於て例會をひらきぬ、當日は酒井郡長及稻垣高等小學校長の講話ありしといふ。
●壽碑　教育に熱心なる根本貞路女史の壽碑は、此程全く落成せしにつき、九月二十日結城神社境内に建碑式を行へり。
●桑名佛教婦人會　三千名の佛教婦人を以て成り立ちたる同會は、九月二十一日寺町本願寺別院に於て其發會式を行ひぬ、當日は南條文學博士の講話ありし。

●西京通信

荒木氏眞

●大坂にありし基督教主義の女學校なる照暗女學校は、今度西京に轉じ、烏丸通丸太町に校舍を建築し、十一月頃より着手するよし。
●又西京師範校女子部は、廢校せんとて府會議員は彼是周旋する由。

●福井通信

秋山貞二

●高等女學校長　本縣參事官兼高等女學校長は、依願其兼務を免ぜられ、本縣尋常師範學校教諭兼高等女學校教諭若杉八百太郎氏は、高等女學校長（但高常女學校教諭如故）を命ぜられたり。
●婦女の職業　兵庫縣にては、過般の洪水に罹りたる貧家の婦女が、其職業を喪ひ、流離顚沛の慘境に陷るものあるを以て、本縣羽二重織工女に使用すべきの目的なきか、若し使用し得べしとせば其人數等回答せられたき旨、同縣廳より本縣廳へ照會越したるに付、當縣廳にては直ちに絹織物事務所をして各機業家を調査せしめたり。
●感化保護院　當縣各郡有志者の首唱にて、感化保護院を當市に設立し、無告の究民に相當の職業を與へ、且つ出獄后職業なきものを入院せしめ、感化就業せしむるの目的にて、其資金を一万五千圓とし、目下募集中なり。
●工女の貯金を奬勵す　本縣知事牧野伸顯氏が、品行方正にして縣下の矯風に盡力せらるゝ事は、前に通信せし所なるが、同氏は目下羽二重織の工女が、過分の賃金を收納するにも拘らず、從ふて之を過分に浪費し去り、毫も他日の圖を爲さゞる在樣を見て、痛く之れを憂ひ、何とか此等の人々にも貯財の慣習を造らしめんと苦心せらるゝも、此等の事は命令的強迫を以て爲し得べきにあらず、身自ら此の慣習を作るに如かずと、今度一方法を設け、知事以下屬吏に至るまで、皆な悉く俸給の百分の三以上を貯積せしむる事となし、頻りに貯金の必要を奬勵し居れり。

●夏期旅行中の通信

山室軍兵

●順正女學校　同女學校は備中高梁にありて、地方的教育を施し、殊に裁縫の一科に長ずると云ふを以て、中國邊に名あるとなるが、此反動の時勢に際し明に基督教の主義を告白するにも拘らず、校運增〻隆盛に赴き、今は百四五十人の生徒を有し、財政も日に豐かなる由にて、其卒業生の如きも多く出でゝ、同地方良家の妻母となれるものあり、小學校などの裁縫教師となりて獨立の生計を營めるものも尠からず、從來既に神戶松山等の女學校に聘せられて、同く裁縫教師たるものもありしが、今年は又新に一人を岡山なる山陽女學校に送り、更に又一人を京都なる同志社女學校に送らんとしつゝある由に聞く。
●山陽女學校　同校は此度、彼の家族主義女子教育の唱導者なる望月輿三郎氏を聘して教育のとを托し、猶は順正女學校出身の神崎某女を聘して裁縫教師となせる由。
●看病婦の需用　世には敬虔なる婦人の心程優しき者はあらずと言ひけんルーテルの言、豈に我を欺かんや、本所區の養育院に於ては兼て同志社看病婦學校の卒業生大塚元野姉を聘して、孤兒老弱者の世話など賴み居りしが、頗る好結果ありしを以て、此度更に本年度同學校の卒業生西村きく子を聘して、幼者の世話を委れし由、又岡山孤兒院及震災孤兒院に於ては、夏季休業中、矢張同學校の生徒一名宛を雇ひしに、大に好結果の舉るありしかば、院內一同頗る滿足し居らるゝと云ふ、余輩は此般の吉報の一日も早く到處に見聞し得るに至らんとを深く望んで止まざるものなり。
●最も奇怪なる一縣會議員　東北學院の一生某、今夏仙臺より山形秋田新潟の地方に旅す、其陸前羽前の境に到り、計らず中山の溫泉場に宿するや、此地の一縣會議員某と云ふ者が營める宿屋に投ず、彼の室に入るや數人の妖婦交〻來りて媚を獻ずるの狀あり、彼只默然聖書を讀み居りしかば、妖婦等は程なく去り行きしが、只隣室向房、醜夫妖婦等の喧騷せる言語舉動手に取る如く見聞せらるゝに、彼は大に慷慨し、如何にせば好きかなど思煩えるうち、何ぞ計らん其隣室に宿せる三十才計の二夫婦が、酒を飮みて放談せる揚句、終に一時婦を交換せんとの相談を始めしにぞ。彼大に驚き、急に宿の主人を呼んで之を詰り、懇々不義の利を貪るべからざるを說き、斯かる風習を改めざるべからざるを說きしに、主人なる議員は赧然として答へて、然り、余とても之を知らざるにはあらざれとも、今急に之を革めば、商賣の一朝地に落ち來るを如何せんと曰へりとぞ、是れ余が彼の青年より直に聽きたる話なり、彼は實に堅確欺かざるの青年なり、嗚呼縣會議員にして猶ほ斯くの如きものあるの今日、焉ぞ何時迄か儀文神學の末に拘りて、生ける大道を掩蔽し居るべきぞ、今は吾黨が大に警醒して、活德活義を天下に唱道すべきの時なり。

朝鮮通信

青山好惠

(一)淫猥の風俗　當仁川港も開港場に免れ難き淫猥の風俗實に甚だしく心ある者をして覺へず長歎息せしめ申候能く探り見るに當港の風俗此く淫猥となれる原因數箇條あり(第一)は男子は多く獨身者にして其數女子の數に殆んど三倍せる所より需用供給の理に依り女子は一般より珍重せられ男子若し如何なる醜婦にても說得して已れの情婦となさば世間より名譽とせらるゝが如き有樣なるより誰れにても婦人を得んと欲するの情を勵まさるゝ事(第二)は此の狹き仁川日本居留地に料理店十數戶あり各多くて十數名少くとも五六名の酌婦を置けるとなるが此の賤業婦人は初めより日本人西洋人甚しきは朝鮮人等に淫を賣る爲めに渡來し居る者なるが故に客の求むるあらば直に應ずるより情氣盛んなる各商店の手代輩は他に天然或は精神上の快樂なき地なる故自然に足を此れ等の料理店に入るゝ事而して此れ等の賤業婦人の往々にして良家の妻となりて自然に淫亂の種子を散布するを(第三)は日本居留地に隣りて營業し居る數十名の朝鮮娼妓は何れも其價の廉なるより多く金を有し居らざる日本勞働者は之れに赴くより次第に淫風を居留地に散布し殊さに當地にては洋妾輩何故にや人より尊ばるゝより良家の女子も亦好んで洋妾の風に擬し或は自ら洋妾とならんとする事其他原因は數なるべきも先づ此れ等は重もなるものならんと存候誠とに困つたものに御座候

(二)藝妓の公許　三港中當港のみは此れ迄藝妓娼妓を公許せざりしを以て淫猥の風俗も甚しき乍らも今日の有樣にて止り居れるなるに近頃咄々大怪事我々の最も悲憤慷慨に堪へぬ事出來致し候即ち先般來任したる副領事能勢辰五郞氏が達第四號を以て藝妓を公許したる事に御座候能勢領事は風俗改良熱心家なりとの事なりしを以て小弟等は千軍萬馬の大援を得たる心地し居たるに此の突然の藝妓公許如何にも奇怪不審に不堪大に朝鮮新報紙上にて攻擊仕候藝妓を置かざる今日にてさへ風俗の腐敗如此にして正義の人は恢復を謀り居る今日誰れも其必要を唱る者なきのみならず其有害を唱る者多き中に藝妓の如き風俗壞亂器械を公許して淫猥の風を散布し商人等の身を誤らしめ商機を誤らしめ日本の國利を害するの必要更に無し藝妓廢止の事は日本にてさへ唱へ居る今日諸外國と商賣上の快戰を試むべき此地に於て之れを公許し間接に日本の國利を害するが如きは慨歎に堪へざる次第にて一部藝妓公許贊成の者等は此れが爲めに新に居留地の稅源を見出すの利益ありと唱ふれども目下居留地の費用は常に六七百の餘剩あり新に稅源を得るの必要なし且つ此の論の如きは藝妓を公許して新稅源を得る利益と「人」と云ふ大切の者を害する害との輕重を知らぬ輩にて素とより取るに足らず候當港領事の如きは風俗を改良すると稱して賣淫婦數名を放逐し置乍ら今藝妓を公許するとは左手に作つて右手に破壞するの類と存候

(三)女子の狀態　當港の女子十四五歲となり未だ情人無き者は人より不具者と見做さるゝ樣の有樣以て一般の狀態を知り得べくと存候仁川高等小學校を卒業せしものゝ中には學才も多く世間に耻かしからぬ者多きも社會は何時の間にか淚れ等を腐敗せしめ東京にても行きて女學校にても入校せんとするが如き氣象を挫折せしめ申候殆んど泣歎に堪えざる次第小弟共は幾たびか溫良淑德の妙齡女子が見す〳〵仁川の淫風中に捲き込まるゝを見て中宵淚を垂れて彼れ等の爲めに悲みし事屢々に有之候嗚呼如何に考るも憐れなる者は仁川に生長したる日本婦人に御座候

(四)基督教傳道の必要　小弟が以上に陳述仕候此の地の悲むべき狀態を變じて淸潔なる道德鄕と仕候には是非共我が基督教の力ならざる可らずと存候此の暗黑なる仁川の世界を光明輝々たる樂鄕となすには是非共我主基督の愛の光ならざる可らずと存候而して基督教を此地に傳道すれば尤も能く効果を收むるを得べくと存候其は此の地の人民の此く淫猥の俗に沈めるは一に精神上の快樂無きが故なるを以て他に一の精神を愉快にせしむる有樣を見出さば彼れ等は喜んで之れに赴く者なるに相違なき故に御座候且當港在留人は大概普通の常理は解し居る者なるを以て一朝主の道を少しにても解すに至れば之れを信ずるも亦速かなるべき故に御座候故に今日日本より熱心なる傳導師を其夫人と共に送り傳道師其人は專一に基督教の宣傳に從事し其夫人は仁川小學校を卒業せし女子を敎育する女學校を開き傍ら婦人の傳道に從事せらるゝが如きは今日尤も切要の事と存候其の曉には在京城の米國宣敎師は喜んで助力を與ふべく効果を收むる事萬全なるべしと存候日本より男女の宣教者を同時に此地に送る事は今は殆んど其必要の絕頂に達し申候

女報

可愛子編

●皇后陛下　は九月十五日午後二時三十分御出門にて、靑山御所へ行啓在らせられ、皇太后陛下に御對顏種々御物語の末黃昏頃還啓遊ばされたり。

●新客ウエスト孃　待設けたるウエスト孃ハ、いよ〳〵ジヤパン號を以て、九月十三日橫濱ヘ着せられたり、橫濱の有志者ハ十四日午後七時三十分より海岸會堂ヘ於て之を歡迎せり、會堂の正面には日米兩國の國旗を交叉し、午后八時日本禁酒會々頭林蓊氏司會にて、奏樂あり、伊東恭三氏總代として英語にて歡迎の辭を述べ、次に美以教會の牧師二宮安次氏女史を五百有餘の聽衆に紹介し、次に根本正氏同女史の履歷を述べ、終りて女史は歡迎に對する答辨を述べ、且つ米國オハイオ州に於ける女性の禁酒事業の爲めに辛苦せし實况を述べ、其濫觴を詳說し、世界婦人禁酒會が現に實行する運動計畫、其他同會より萬國ヘ派遣中のリビットアカマン、アンドレイ、ドクトル、ブッシユネル諸女史が南濠、南亞弗利加、ズール、南米に於ける遊說の摸樣を述べ、終りに日本の女性が福音的禁酒事業の爲めに熱心盡力せられんとを懇說したり、又孃を歡迎せん爲めヘ、東京婦人矯風會

婦人禁酒會、白標倶樂部の諸貴女は、去る十八日東京芝公園三緑亭内に親睦會を開きたり、集會者五十人餘、矢島かじ子の歡迎の辭、孃の演説あり、孃ハ數日滯京の上、直に北海道に向て遊歷せらる。

●鳩山夫人の裁縫稽古　鳩山博士の國會議員競爭の際には、熱心に運動し、鳩山代議士の名と共に其名を知られたる、鳩山夫人は、近頃感ずる所ありしにや、一ツ橋の女子職業學校に入りて裁縫の稽古を爲し居らるといふ。

●聖教女學校教員　なるフレンチ孃、は今回長崎に轉ぜらるゝ由にて、同孃が關係せられたる、戸部學校高等科生徒一同は、九月二日同校にて一同離別會を開きたり、教員佐伯敎一、鵜野市太郎兩氏の禮言ありてのち、佐々木英子の通譯にて留別の答言ありき、孃の教授は至て懇切なりしかバ、一同殊更に別れを惜みたり。

●能筆の少女　讃岐國多度郡豐原村士族上田晴治氏は、大師流の書家なるが、氏の女照子(本年五歳)も其書系を稟け繼ぎてや、深く學ばずして塗鴉に巧みなるより、氏は照子を拉し今春東京に上り、それより茨城縣水戸市に赴きたり、照子は運筆と云ひ字體と云ひ天晴れの書家にて、五歳の少女には實に珍らしき筆なりといふ。

●婦人會　水戸市の婦人令孃の組織せし婦人會は、每月一回宛水戸公園内弘道館に於て開會し來りしも、客月ハ炎暑の候なるを以て休會せしとの事なりしが、九月九日例會を開きたり。

●高等小學卒業の女子　昨二十四年中、埼玉縣下に於て、高等小學を卒業せる女子は四十三人ありしと云ふ。

●横濱根岸病院　同院開設の際より非常に盡力られたる女醫菱川やす子氏は先約の故を以て不得止今回同院を辭し、京都へ赴かれ、其の後任者は十全醫院より遣はされたり、同院先月中の概況を云へば、收入金五十六圓四十二錢七厘、支出金百〇八圓五十二錢八厘にして、不足金五十二圓十錢〇一厘、内二十七圓〇一錢八厘は有志者の寄附金、二十五圓〇八錢三厘は横濱婦人慈善會よりの補助金を以て之を補へり、又入院患者合計は十九人にして、内院費五人、半院費二人、自費十三人、外來患者は惣數九十人にて、内院費三十九人自費五十一人なり、又同院規則の大要は左の如し、來訪時間午後一時より四時迄、外來患者診察時間午前八時より十一時迄、入院は何時にても許すと雖も、醫師の見込に因ては斷るともある可し、但し院費患者は横濱婦人慈善會の證明書を携帶するを要すと云。

●日本婦人會への出器人　閣龍世界博覽會へ出品する爲め、長野縣下よりは、製絲、養蠶、押繪の三種をば、日本婦人會へ向け出すとさなりたり、今三業中最優等の伎倆を有するものとして撰拔されたる婦人を聞くに左の如しといふ。

(押繪)　東筑摩郡松本町士族正養氏養母　星合しづ
(製糸)　諏訪郡上諏訪町士族高山康氏母　高山すゑ
(同)　下伊那郡龍江村平民吉澤伊太郎氏妻　吉澤いよの
(養蠶)　埴科郡屋代町平民石黑金十郎氏妻　田中ちゆう
(同)　小縣郡鹽尻村平民佐藤八郎右衛門氏妻　藤本まつ

●橿林皇后の御陵墓　京都府葛野郡嵯峨村字上嵯峨の靈龜山尾嘉明社は、橿林皇后の御陵墓なるべしと、同地人民及び御陵墓守部向畑治三郎より連署を以て、九月二十三日千田京都府知事へ具申したりと。

●同志社女學校前年の卒業生　同校前年の卒業生中、永野久子は看病婦修業の爲め米國市俄高府に、南村婉子、田中定子は同目的を以て一は東京に、一は京都に山田篤子は教育の爲め高知に赴かれ、又竹内竹、濱田知龜、中山咲、服部園、林德、永井鶴(以上文學科)、松木裔、村上絲、小栗里、湯淺仁意(以上師範科)、阪田郁(未定)の十一氏は女學校に留て專門科を修めらるゝとと定まれり、又白神敏子は福井縣高田判事に嫁せられたり。(同志社文學)。

●京都看病婦學校　京都同志社病院の附屬なる京都看病婦學校は、創立以來既に三十有餘名の卒業生を出だし、追々盛大に赴き、彼の昨年九月教師ミス、スミス氏の後任として來校せられたるミス、フレザー氏は、爾來尤も懇篤に教授され、大に生徒の囑望する所となり、既に本年九月入學志願書を差出せる者甚だ多く、爲めに在來の校舍は狹隘を告るに至り、目下教室增築中なりと、該校を卒業せし者は既に悉く公私の病院に或は一家に於て、看護に從事せるに、尚は諸方の病院或は開業醫等より雇聘方續々申來るも看病婦不足の爲め之に應ずる能はずと云ふ。

●浪華女學校　同校にては、今回内外の組織を改正し、教授の方針を確定し、新に東京高等師範學校出身の米山さく子を聘し、教授を依託し、兼て寄宿生一般の取締りも囑托せり、同校は從來種々の運命に遭遇し、校運も從つて退歩の勢なりしが、委員教員諸氏が非常の苦心と勉強とにより、今日に至り愈校基の確定するに至り、本年度に於ては已でに十餘名の新入生ありといふ。

●大河ぬい子　は曩きに同校の學生たりしも、病のために退學して爾來數年間養生せしも、醫藥効なく、遂に先般堺の自宅にて永眠せり、然るに同孃は其病床に在る間だ一日も未だ曾て同校の事を忘れず、就眠の際にも其阿母に向て遺言し、自分の遺蹟を悉く同校に寄贈せしめたりといふ、殊勝なる心掛にこそ。

●神戸看病婦學校　今回神戸市中山手通三丁目五番地に新設せられたる同校は、英領米國金田聖公會に附屬し、校主は英國宣教師ヒユ、ゼ、フチス氏にて、校長シヤーロング女は、米國ニユーヨーク州ブルクーン看病婦學校を卒業して、頗る看病の事に經驗ある人の由にて、是より專ら善良なる看病婦を養成する見込なりと云ふ。

●婦人斬りの流行　東京にて一時流行したる婦人顏斬りが移轉したるものにや、備後尾の道邊にてハ昨今頻に婦人を傷ることと流行し、現に去月中旬同地尾崎町の勇德稻荷神社へ參詣し居たる婦人に切附け重傷を負せたる兇漢ありて、今なほ捜索中なるに、九月十五日の午後十時前、又もや尾崎町の前田保太郎の妹某女が所用ありて久保町へ行き歸り道、同町海德寺前を過ぐる折りから、小蔭より暴漢現はれ出で突然某女の腹を突刺したるより、某女ハアッと叫びながら人殺し〳〵と呼はりたるに、暴漢ハエーやかましいと又た一刀頰へ切付け、長さ二寸深さ三四分の傷を負せ其まゝ何方へ逃へ去たりと、又た其夜同時ごろ此海德寺溝川を隔ること僅か五七間西向にても、久保新開なる翠明樓の女房おしようと云が、暴漢のため手拭に石を包みたるものにて、面部其他を打れ、血汐の中に倒れ居たるを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

近所のものが見認て宅へ送り、今なほ治療中なるが目下其筋にては右の暴漢を嚴重に探偵中なりといふ、惡むべき兇漢なるかな、吾人は益々警察の注意を促がすもの也。

●香川縣尋常師範學校女子部　同校女子部生徒は、昨年末に於て生徒十三名あり、前年より增すと二名、同年卒業の女生十名ありたり、卒業生中人物學力共に優等と稱せられたる者三名、卒業後高等小學訓導となりたる者一名、尋常小學訓導六名、師範學校訓導心得二名なり、月俸八圓を給せらるゝ者、其中に五名あり、又任所未定の者一名あり。同部の生徒は土曜日の午後寄宿舍内に於て、點茶、挿花、彈琴、造化等、裨益となるべき事を學ばしめ、或は教員に從ひて近傍の山野海濱に出遊し悶を遣り心を娯ましむる等、身躰愛養の道を圖れり、又同年も男女兩寄宿舍中各一室を以て養蠶室となし、養蠶を實習せしめたり、成蹟最良ならざりしも、同縣繭品評會の評定に於て中等以上に位せりと。

●進德女學校　本年讃岐婦人進德會の設立に係る進德女學校は、女子に必要なる教育を施し、高等女學校に模倣せんことを期するも、固と有志者の醵捐金を目途として設立せしものなるを以て、學資匱乏を告げ、其基礎未だ確立せず、殊に教員も亦缺乏して未だ規定の各學科を教授する能はざるの實況なり、と官報に見ゆ、困難を排して堅志を見る、女學校の創立者よ、請ふ忍びて勤めよ。

●女裝男子　福岡縣三池郡駛島村に、一人の奇男子あり、性來女裝を好み、髮は銀杏返に結び、衣裳も全く女の打扮にて、今日の交際も女に非ざれば交はらず、他家に雇はるゝことありても、男子の働きはすれど、給金は女子の給額通りにあらざれば請取らず、警察よりもしば〳〵說諭を受けたれど、只だ性來の好み故許し給へと答へて、なか〳〵承知せずと云へり、奇と云ふべし。

●基督信徒婦人聯合大祈禱會　北海道札幌なる婦女子の企圖にて共進會の開會中を機とし、各地方の婦女と、避暑の爲め來遊中の外國婦人等を招き、聯合大祈禱會を開かんと、各教會の委員方種々奔走し居られしが、いよ〳〵九月十三日午後二時より南三條の札幌教會々堂にて開會せられたり、司會者は松浦たか子にて開會の主旨を述べ、西川まさ子の祈禱、スミス女學校教師矢島たつ子の聖書朗讀あり、後數名の婦人祈禱せられ、夫より西川かめ子は札幌教會婦人會の現況を、小寺けい子は全教會老婦人會の現狀を、菅田たみ子は日本基督教會札幌講義所婦人の事を、西川まさ子はメソヂスト組會婦人の有樣を、本間榮子は日本基督小樽講義所の模樣と同子一身上の經歷に就て述べられ、聖公會の某女史の報告あり、次にガードナー女史は伊勢の津及び名古屋の景況を語られ、祈禱にて一應會を閉ぢ親睦會に移り、茶菓の饗應の間親密に打語らひ、各歡喜の情に滿らて家に歸れり當日集會せし姉妹は八十四名なりき。

外報

●婦人政治倶樂部とクリブランド夫人　合國衆大統領改選の期も彌々切迫し、政海の潮流漸く急ならんとし、其の澎湃たる潮流は端なく婦人社會迄押寄せ來りて婦人政治家てふ者續々現はれ出でたり、而して渠等は皆英才識見ある貴婦人にして、這回一の政治倶樂部を組織し、羽書をフランシスクリブランド夫人（大統領候補者クリブランドの夫人）に寄せ、夫人の名を以て同倶樂部の名稱と爲さんことを乞へり、クリブランド氏は之に對して左の返書を贈れり、曰く「余の親愛する淑女諸君、諸君は余の妻に書を寄せ、今回新たに組織せられたる倶樂部に冠するに余が妻の名を以てせんとを請へり、是れ素より諸君の好意より發したる請求、而かも公共の爲めにせんとの事なれば、余等が之に應ずると能はざるは實に遺憾の至りなれども、余等は到底諸君の請に應ずると能はざるなり、然れども斯く諸君の請を拒絕するも、決して諸君が余等の眞意を誤解せられざらんとを希望す、何となれば既に家庭に於て、母と呼ばれ妻と唱へられたる神聖なる者は決して政治的倶樂部に用ふ可きものにあらざればなり云々」と、俗界を馳聘する政治家にして、其胸中這般優且清、一段高遠なる氣を存す、眞に是れ政界に於ける近來の一美談。（自由）。

●英國女皇狂人に遇ふ　ワイトの島なるオスボーン宮の近邊を御通發の際、何者とも知れず一人の男が烈しき身振りして御馬車の方へ突き進みたり、御馬車の止まりければ、彼の男は陛下の御許へ近寄りて申しけるやう、余は外國の伯爵にして余と其外、數多の人は、若しも女皇が位を禪らざるに於ては御命を申受けんことを誓ひたりと、女皇は彼れが亂暴狼藉の演說を聽て、少しも恐れ給はず、御無言に在せしが、軈て陛下並に御陪乘の人々は彼れが心の狂へることを知りたり、陛下には彼奴が或は其言葉を實行しもせんことを御承知成らざるには非ざれども、毅然として動き給はず、尙ほも御言葉を發せられずして、靜かに彼れを見詰めて見給ひたり、兎角する中に御陪乘の一人御車を下りて、物靜に彼の男に云含めて御前を去らしめたり、無禮者は警察に渡されて獄屋の中に在り、其狂人たるは少しの疑ひもなしと、倫敦八月二十日發の報に見えたり。

●英國の慈善金　昨年中英國が慈善の目的に使用せし金は一千五百万弗なり。

●婦人の投票權　米國カンサス中四個の市に於ては、投票權を有する婦人男子よりも多しと云ふ。

●寡婦の割合　印度に於ては其の人口の一割は寡婦なり。

●瑞西大學女生徒の數　昨年より本年に跨る學年中、瑞西國九箇所の大學校に於ける女生徒の惣數は二百二十四人、即ち比耳奴大學に七十八人、チューリッヒ同七十人、ゼチウア同七十人、ロザンナ同五人、バセール同一人なり。內醫學百五十七人、哲學六十二人、法學五人にして、總員を國籍に由り別てば、百十六人は露西亞、二十一人は瑞西、二十人は獨逸、十三人は北米合衆國、九人は澳地利、七人は伯爾加里、四人は英吉利、三人は羅馬尼、二人は土耳其に屬すといふ。

●婦人轉轍手の功能　ポーランドに於ては、婦人を轉轍手に用しより、嘗て不時の災禍起らざりしと云ふ。

●僧侶の娶帶　希臘敎の僧侶も妻を娶るを得ると雖も、有妻者はプリイストフウ

ードより高位なる僧職に就く能はざるの制なり。

●第四回萬國會合　アルコホールの悪弊を防がん爲めの萬國會合は當年九月ハアグに於て開かる委員は論じ易き爲め議題を左の三つに分てり第一アルコホールの道德衛生醫藥上に於ける關係第二は豫防法并に説明法第三は強逼法。

●ウイラード夫人の訃報　白標會員中に其名を知られユニオンシグナルの主筆者の敬母ウイラード夫人は千八百九十二年八月七日安息日の早暁其永き息に逝れたり享年八十七才七ヶ月なり嘗て大膽なる聖人と呼ばれし其名は最も能く夫人の性質を證するに足ると葬式は會合せる夥多の友人の前にて火曜日の午后エバストンのメソデスト教會にて擧行されシカゴより九哩なるロース、ヒールセミタレーの墓地に葬る此の尊敬されたる聖人の薔と共に其傳の大意并に后年の間に話されたる著しき物語を記念の爲めユニオンシグナルに載せて報すべしとウイラード孃は幾十の友等の厚き同情を現されし事を感謝せらる。

●吸飲の固性　デモスセニース嘗て曰く能く吸飲するは海綿の固有性にして人の性質に適せず。

●創作と婦人　エデリンは其創作の文雅なる詳説をなさん爲め二百人の婦人を任用せり。

●遺傳飲酒　飲酒が遺傳より來る時は其家族は或は時として四世稀有に五世にして終に死絶せん。

●ピ、ダブル、ジョン氏夫婦　ジョン氏夫婦は共に去る六月ガレスブルグなるロンバルト大學のライダル神學校を終てバチエーラーオノデビニチーの稱號を受けたり其卒業論文題は理學の調和と一つは宗教心の本性は永久なる事にして正當の試驗を受けデバキユーの宇宙神教々會の教職たるべく任ぜられ良人はウオターローの牧師となり夫人はマオント、フレザント、オセジ其他の處にて説教せり。

●教會の女牧師　エフヒングハムのエダエッチケブレー夫人は兼て禁酒投標其他社會を純潔になす働の首導者として知られたる人なりしが今度傳道の職に任ぜられ去る七月二十四日シエルウワイルなる第一組合教會に於て聖晩餐を施行したり婦人は數年前に充分なる試驗を受け説師の座位を許されたりかつ法律の實行に至りては其良人に與かる所ありと雖多くは其官許の學識を改革事業の諸方に用ひて之を助けたり夫人には又著しき威勢と剛き性質及び術計に豐なる良性を賦與せられたり夫人は其仲間に對して最も利益ある活潑なる振興事業を取る丶事なれば今后其講壇より人の救助を爲すに付き一層の機會を持る丶事多かるべしジユアンタ、ベリケンリツ孃も去年オブリンの神學校を卒業せしがニウーヨルクのブルークトンなる組合教會の牧師に任ぜられたりと。

●マルサーアンニーリツクス夫人の旅行　年老ひたる黑女(亞弗利加南部の黑女)は近頃女王ビクトリヤに謁せん爲め遥々西亞弗利加より行けり夫人は此の旅行を果さん爲め五十年間費用の僅づ丶を省きて之を貯へたり夫人は當年七十六歳にして其若かりし時十三人の兄弟と共に合衆合にて旣に奴隸に賣れたる一人なり其兄弟姉妹の行末は如何なりやは其后一度も聞かざれども夫人の父は長き困苦の后自身と夫人との自由を買ふ様處置したりしかば兩人共に亞弗利加中の自由國なるリベリヤに歸へれり。

●驛遞總監ワナマカル　は七歳入盟約と題したる合衆國の貨幣并に立法に關し、エメリー夫人の著書を郵便驛車より投出せりたとひ其書物は博學眞實ならずして價値なきにしろ郵便局掌の職務とすべきは如何なる事なりや果して撿稿官職を冒して可ならんや出版の自由は共に出版物送逍の自由を含むものにあらざる乎社會の道德禮儀の制限の中に擴承あれよ。

●バウワ孃と鴉片賣買　バウワ孃は印度に歸へりし后屢々印度人の集會にて鴉片賣買の事に付きて話せり今爰に載するはボンベーの管轄なるロハに開かれたる集會に付き土人の報知者の報告を抜萃したるものなりこは素よりボンベーの守護の下に開設したるものにして八月九日バワー氏を會長とし亞米利加宣教學校にて頗る大なる會を催せりバワー氏はバウワ孃を招介するに付けて曰けらく我は英政府の許に多くの利益を受く　を認め歡從すとは雖も強て之を云ば印度政府に付き嫉忌し能ざる三要點あり即ち分營の事アブカリの法命及び最も有名なる鴉片賣買の事なり實に政府員諸氏は我等が政府の欠點を看破し之を除去せん爲め盡力するに至るを要するほどの辨別なきにあらざるは確實なり唯我等は分營とアブカリ法命及鴉片賣買の廢されん事の爲め爰に立つものなりと此時スーンデルバイ、バウワー孃は演せんとして立れたり世界創造の時より以來ロハに於て公衆の前に立ち婦人にして話されたるは實に此孃こそ其初めならん。

●正誤

女學雜誌三百二十七號(赤表)乙の卷、文藝欄内、忠友の歌「松が枝を千年とたのむ山鳩のねぐらの離やれらひそめけむ」は「思ひかけゝむ」の誤、社中某氏、春夕月の歌、「春雨のつゆは柳に見えながらのきばにあすむ夕月のかげ」は「のきばにかすむ夕月のかげ」の誤、某孃の埋火の歌、「妻戸もる在明の月のかげさえて、あけゆく閨の埋火」は「白くなりゆく閨の埋火」の誤、案山子の會社中、北里の折にふれての歌「さらぬだに露けき旅の草まくら結ぶ夢路に五月雨ぞふる」は「結ぶ夢野に五月雨ぞふる」の誤、

●社告

女學の講義錄は、講者の病氣と、紙面の都合によりて、今回も掲載すること能はず、次回に之を登錄せんとす。

本號には本文四頁と、孤兒の友二頁を增加せり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

孤兒之友

畜耡子編

孤女學院の製糸

去年尾濃震災の時、梁木の下に手足を砕かれたる母躰に宿り、凛々たる雪中に生れし女兒。或は父母二人長き病に罹りて死亡し、世話すべき遺族の爲めに、却て悪處に賣れんとせし三女子。或は父母失せ、兄弟流浪して、無情漢の毒手に陷れる幻女。或は父母親戚皆死亡し、心なき人に非道の養育を受け、朝夕足下にかけられ、悲泣の涙に日を送りし女兒。其他種々艱難の中に遭遇せし者、今は集りて三十有二人、瀧の川孤女學院に、我が敬愛する兄姉達の祈りと涙に慈育せらるゝ幸福何ものか之に過ぎん、余は謹で慈愛恩寵の天父に向て感謝せざるとを得ず。余は毎々に女兒等に告て。孃等よ孃等の如く一歳より十二歳迄で、三十有二の姉妹親しみ相睦び、敬し相愛し、慈父の手に養はるゝ者蓋し天下に稀なり、孃等よ天父の恩恵に感化せられて、眞誠なる女子の善美を示せよと、云々。

孤女學院創設以來日尚ほ淺く、萬事未だ整頓を告げず、然るに院主大須賀君首め院内過半劇病に罹り茲に三閲月、一時内外の急に際して失費又大に嵩み、經濟上にも亦困難を感じ來れり、幸に愛兄姉の熱祈により、今や病者悉く愈ゆ。此頃大須賀君或る女學校に是迄の關係を斷ち、專心孜々院内の整理に力を致され、自今事業擧り、又經濟の如きも及適自動辛勞のパンを喰ひて相經營して、猶其不足は祈りて求めんとす、先頃より封筒巻紙などを作り。自今亦製糸の業を起せり、此職業は至極女兒に適當し、其需要も亦廣ければ、修學の餘暇追々之を多く製出なさんとす。

各女學校に請ふ

各女學校にて裁縫科に用ひ給ふ白紺木綿縫糸は、願ば孤女學院にて製する綿糸を御使用あらんとを冀望す。價格の如きも成べく市價より騰貴せざる樣致したき心得なり。若し又御注文に遠隔御不便の向は、女學雜誌社内孤兒の友へ御注文下されたし。其他孤女學院へ同情を給ふ、博愛なる姉妹方、冀ば彼の可憐なる孤女が軟腕もて作り出だせる綿糸、御眷顧を垂れ給はんとを切に希ふ。

●各女學校、及び姉妹方へ廣告

孤女學院に於て孤女等が製造致し候白、紺、木綿縫糸幷に巻紙、封筒、等。同學院へ御同情を垂れ給ふ、敬愛なる姉妹方、多少共御使用給り度切望致候、若遠隔御不便の御方は、女學雜誌社内孤兒の友へ御申越被下度候

東京下六番町六番地女學雜誌社内　孤兒の友

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

孤女學院報告

●第八月寄附金

金貳圓 赤十字社看護婦有志者諸氏
金五拾錢 高橋ひさの氏
金壹圓 無名氏
金五拾錢 山口縣 富海氏
金貳拾五錢 大分縣 無名氏
金貳圓 寄附書籍賣却
金九圓 無名氏

●支出

金拾六圓九拾貳錢五厘 米五俵
金五圓六拾錢 肉類青物代
金四圓六拾六錢六厘 味噌、醬、炭、薪、油、
金九拾五錢 ミルク半ダス
金四圓 乳母其他の給料
金三拾錢 新聞代
金三圓 醫師車代
金壹圓九拾五錢 病人用諸費
金壹圓四拾九錢 藥代
金三拾八錢 車代
金貳拾三錢五厘 綿糸代
金三拾三錢六厘 器具代
金七錢 種物代

合計金三拾九圓九拾錢貳厘

仝拾五圓廿五錢 八月寄附金
金貳拾四圓七拾貳錢壹厘 前月繰越高

總計金三拾九圓九拾九拾七錢壹厘
差引殘金六錢九厘

●八月中物品寄附

袷物壹枚 柴田氏
單物二枚 同
同三枚 明治女學校原氏
帶二本 同
反物一反 山口縣 富海氏
蒲團一枚 三澤氏
テーブル一脚 岡村豐吉氏

東京北豐島郡王子元瀧の川村
明治廿五年九月 孤女學院

八月中仙臺孤兒園報告

一金五拾錢 中村 佐藤りき君
一金五拾錢 仙臺 須藤鷲郎君
一金壹圓五拾錢 仝 無名氏
一金五拾錢 仝 高橋傳五郎君
一金五拾七錢四厘 仝 松本惣吾君
一金貳拾錢 石卷 某君
一金貳拾錢 石卷 某君
一金拾七錢 宮城縣吉岡町 AB生君
一金貳拾錢 若松 篠崎やす君
一金拾錢 仝 半澤さみ君
一金五錢 仝 佐々木きえ君
一金五拾錢 播磨 小橋勝之助君
一金五錢 若松 年野さめ君
一金參拾錢 中村 吉田町君
一金三拾錢 仝 中野かつ君
一金參拾錢 仝 橋本利邦君
一金拾五錢 仝 高城かの君北堂
一金拾五錢 仝 高城かの君
一金拾錢 仝 守屋いの君
一金五錢 仝 小柳津たけ君

合計金六圓三拾九錢四厘

八月中物品寄附

一味噌 壹包 仙臺 大久保澤吉君外數名
一白紙並風呂敷 一枚 仝 佐々木純一君
一白米 壹斗 仝 某君
一白米 貳斗 仝 某君
一團扇 二本 仝 齋藤永頼君
一靴四足並帽子 二個 仝 中島君
一白米 壹斗 仝 三浦宗三郎君
一縮單衣二枚絽單物 一枚 石卷 某君
一木綿單物 壹枚 仝君
一蒲團表引解 四片 仝君
一子供前掛ヶ 三枚 仝
一足袋七足風呂敷 壹枚 仝
一唐縮緬黒頭巾 一個 石卷 無名君
一繻絆袖 一組
一郵便切手貳錢形 貳枚 宮城縣吉岡町 AB生君
一端書壹錢形 四枚
一白米 貳升 仙臺 眞山良君夫人
一白米 三升 仝 藤生金六君夫人
一洋服貳着子供用 仝 中島君
一洋服下着股下三着 仝 仝
一シャツ 壹着 仝 仝
一靴足袋 壹色 仝
一南洋探檢日記 壹册 孤兒之友
一家禽家之友三部 東京 藤井米八郎君
一女學雜誌赤表八月分 女學雜誌社

八月會計決算調

收入高

一金拾壹圓貳拾貳錢五厘
內譯
一八拾貳錢壹厘 七月殘金
一金六圓三拾九錢四厘 寄附金
一金壹圓三拾六錢 商業部
一金八拾錢 孤兒勞働賃錢
一金壹圓八拾五錢 橫山氏 月俸

支出之部

一金拾圓九拾壹錢七厘
內譯
一金三圓六拾六錢 米代
一金四圓 屋賃二ヶ月分
一金壹圓拾三錢貳厘 八百屋物類
一金貳拾貳錢貳厘 藥價
一金貳拾四錢 郵稅
一金貳拾壹錢三厘 肉卵類
一金拾四錢 理髮及湯錢
一金六錢 新聞代
一金六錢 親睦會費
一金拾三錢八厘 器具類
一金拾九錢 履物類
一金八拾六錢二厘 薪炭油味噌醬油類

差引殘金三拾錢八厘

明治廿五年九月 仙臺孤兒院

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學生第二十七號廿二日發兌

社説
不過の英雄を救助せよ……天知子
詩歌の卷
漫筆
隨感錄……………日本の一平民
韓非子の人物……(明治女學校)…ま、ひ、た
家の友
いけ花のすさび
文欄
別れの感謝……(清流女學校)…伊藤眞子
開校式のことば(梅香崎女學校)武藤千代子
卯の花を見ろ…(清流女學校)…梶原定子
孝なれや………(柳眞女學校)…熱田たま子
文評　(二十三號以下)
理科のはなし
林中清氣の理、月は出る時果して大か、
木の葉及毒物、人の吐く氣に害なし、
花暦
昔ばあし
何ものゝ隱君子ぞ、大姫、利休水盤の舜、
信玄と禪僧、見よ地獄の入來れり
わらは遊び、ほゝづき、めかちどち軒の雀、
時の感
夏期號外、文界の近時、田舍翁のことば、
女學生毎月一回發兌、一冊價四錢

新發明品

手桶湯わかしの廣告

一個金壹圓三十錢

一家の經濟は細かき所ろに用心して、些細の事を大切にするにあり、古しへより儉約せずして家の富みたる例し曾て有らず。扨て、此の儉約を爲さんには、家の內の用事を成べく簡略にして、無用の手を省き、無用の費を惜しむにあり。儉約は、富を生ずるのみならず、勉强を生じ、人々心はげみて皆々面白くなり、一家相樂しみて春風の心地よきが如くなるものなり。一家の經濟に心を着くるは、家を富まし、家を樂しくし、家を樂園の如きホームト爲すものなり。

此主意を以て、吾社はホームを美しくするとに樣々心を碎き多年、文筆敎育の上よりして之を試ろみたれど、亦以て一家內の實際の改良を促がすとの大切なるを感じ、先づ家具を簡便にして、細君の勞を省き、臺所元の入用を少くするの方法を工夫せんとす。

扨て此度工夫したるは。手桶湯わかしなり。此は手桶の中に湯わかしを入れ、僅かの炭火にて二十分間に之を熱湯にわかすの法とす、器具は至つて簡便なるものにて手桶にても、水がめにても、盥にても、風呂にても皆な用ゆべけれど、夏向き行水などに使はんに、手桶に投げ込み置き、二十分にて湧きたるを一杯用ひ、更に第二の手桶に投げ入れて、又の二十分間に更に熱湯を得ば、至極重寶ならんと思ひ付き、假りに「手桶湯わかし」と名づく。

各地方にても配達運輸すべし

東京麴町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

北海道一手賣捌　函館末廣町四十九番地　齋藤政七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

正札引なし

新形流行

○はをり紐　品々
○帯留類　品々
○時計紐　品々
○メリヤス　品々

右ノ外組糸一切御好ニ應ヅ精製
仕○御進物等ハ美麗ニ調進仕候

組糸老舗

日本橋區よし町

佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第参館仕候

第七號 城南評論

九月廿一日發兌毎月一回一冊定價六錢
六冊前金三十三錢府外郵税一冊五厘

蔣藏園の序事諸作　寧齋主人
夢花生に與ふ　寺山星川
ルウソオ懺悔記　鷗外漁史
蔣藏園四絃秋　森槐南
むら時雨　惜寸暇文房
野分のあした　殘月樓主
新刊文書　鬼門關尹
評家の衝突、笑ふこゑす、物我生と正太夫、正太夫の評發、「一休和尚」を笑ふ(松雲和尚)　くちわる男
雜錄
再ひ櫻坪隱士の俗歌韻話を評す……(新井虎南)
しがらみ草紙の譯詩、早稻田文學の改良、露の家人に告ぐ

發行所　赤坂區靈南坂町二十五番地　城南評論社

弊社今般前記の處に移轉万事全處へ御通報を乞ふ

廣告

山口縣人　澁谷つち

右の者名を逃道にかりて出京し女學雜誌社、孤女學院、愛隣會等に關係ありと吹聽し、又は所々を徘徊し種々なる布說を致居候得共、毛頭關係無之者に付念の爲此段廣告致置候也

明治廿五年八月

女學雜誌社内　藤井米八郎

黨報

黨報第二十一號（九月廿五日發行）

◉黨論
○内地雜居論（承前）……江口三省
○航路擴張論……栗原亮一

◉論説
○第四議會に對する現内閣の方針如何　加藤平四郎
○實業保護論……足立孫六
○代表者と選擧權……鈴木治三郎
○本年の外國貿易……首藤文雄

◉黨報
○代議士會○天春、福井兩代議士○江沼自由倶樂部○大坂自由黨員の總會○河野、立川、龍野の三氏○義捐金

◉外報
○英國國會開會○愛蘭新自治案○ラボスーア氏○万國講和會議○哥倫比亞合衆國斯内閣○タリヴランド氏の演説○ブラジル共和國第一大統領の死去○パミール事件○二皇帝の會合○埃及問題と露佛

◉漫言
○干渉野合の子孫……皆無庵

◉時事
○總理大臣の訓諭○收税長會議○經費節減○軍艦製造費と製綱所設立費○怯懦○不可望○地價修正と大藏大臣○地租輕減派○各大臣の諸問○信教の自由○辭職勸告○干渉子の自白○政治家○攻撃○知事の試驗○西郷伯○大演習○黨派？警官？○道德○災民○地方官○官制改革○法制局長官○警部長諸問會○干渉問題○新事業費○三曜會○日本橋區民○加藤代議士の消息○新凉○時事日記

定價一部前金六錢○十二部同六十六錢

發行所　東京芝公園自由黨々報局

史海

第拾六卷目次

◉最澄及空海（續）……田中卯吉君

最澄、空海の傳此篇を以て結べり、此篇に於ては澄が顯戒論及び海の十住心論等を著はせし顛末をも序し且論評する所あり

◉フライヘル、フォム、スタイン……東嶺野史君

スタインは實に蓋世の大政治家なり、ビスマルク自ら謂ふ、予の畢生の事業はスタインの遺圖を紹襲するに過ぎすと、其ナポレオンに抵抗して挫折屈せず、遂に克く之を傾覆せしが如き、其諸制度を改革して普國の基礎を鞏固ならしめしが如き、其人聰明、勇膽、堅忍ならずんば能はざる也、殊に其地方制度の改革の如きは、大に我邦の現時に參照すべきものあらん、

◉山下憶良及歌詠……樋口三溪君

山上憶良の人物傳はらず、其耳目鼻口處々に散逸したりしが、今初めて一處に集まるを得たり

挿畫　空海が唐より持參したる五大虛空藏菩薩の珍像彫刻極めて鮮明なり

批評欄　今や一大修羅場となれり、我邦古來史論の快戰未だ此の如きなし

（定價）一冊金九錢○十冊前金七十五錢○市外は一冊に付郵税二錢宛增◉毎月一回發兌

◉史海日本之部（自第一卷至第九卷）（田口卯吉君著の部）

定價金三拾錢　郵税金六錢

史海の前卷既に賣切となれるもの多し而して後卷の讀者にして頻りに前卷を要望せらるると雖も之に應する能はす遺憾少なからさる也故に今之を出版し以て江湖の高需に應ず（卷之八は發賣禁止となりたれども之に掲けたる孝謙天皇の篇は訂正の上掲載せり

東京市京橋區彌左衛門町七番地　**經濟雜誌社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

保羅之傳

松村介石君新著○正價三拾錢、上製四拾錢、郵税六錢○三百五十頁○表紙には鮮美なる保羅の肖像をも掲げ、中には明細なる保羅が傳道地の地圖をも加ふ

豫告の書、保羅之傳成る。頁數三百五十、分項六十章、以て其の一大著書なるを知るべし。此の書は啻に偉大なる保羅の心魂如何を知らしむるのみならず、併せて又た保羅の神學をも説き、保羅の書翰をも説明し、基督教初代なる人傑との對照論をも掲げ、記者が回顧の感慨をも述べ、温故知新の警言を交へ、未信者に對しては眞正基督教の福音をも示し、兄弟姉妹に對しては活大至純なる道をも演べ、以て大に今日に盡さんと欲する一大願望を以て其全篇を貫かしむ。故に此書を讀まば、基督教の教理をも知り、基督教初代の歷史をも知り、其當時の人傑をも知り、聖書なる保羅の書翰をも辨へ、信者未信者内外共に益すること莫大なるべし。

函嶺講話

第四回夏期學校編○正價金二十五錢郵税金六錢

目次○緒言○歡迎之辭田川大吉郎○演説本多庸一○答辭坂田貞之助○仝木下正中○仝今村榮吉○説教パックストーン○夏期學校所感井深梶之助○雅歌論湯淺吉郎○神の子等と人の女子湯淺吉郎○理性と聖書ラット○聖書の默示ラット○聖書の奇跡ラッド○靈性的基督教平岩愃保○聖書のインスピレーション、ラット○日本國民と基督教海老名彈正○仝第二回海老名彈正○聖書の權威ラット○宗教と基督教と日本の國家横井時雄○實驗的證據カックラン○基督教と教會宮川經輝○聖書の實用ラット○説教聖餐式本多庸一○聖書に顯されたる神に就ける思想の發達宮川經輝○雜感巖本善治○日本初代の基督教史ヮルペッキ○來會諸君姓名表○會計報告○廣告

賣捌所　女學雜誌社

發賣

東京新橋　警醒社書店　出雲町一

福井

定價一枚壹錢五厘●一ヶ月貳十五錢●三ヶ月六十五錢●廣告料五號活字二十二字詰一行一日分二錢五厘●四號活字一行三錢●二號活字一行四錢●月曜日及大祭日翌日休刊

福井の用筆は森嚴にして立論は中正なり
福井の報道は迅速にして記事は確實なり

福井
福井
福井

は官に媚ひず民に阿らず正直行々如
は正を正とし邪を邪とし言論諤々然
の本領は一着眼世に高き處に在り
の特色は一肚皮時に合ざる處に在り
は教育衞生の思想を普及するに力む
は農工商業の發起を奨勵するに任ず
は斬新にして穠郁なる詩歌を採録す
は豐腴にして典雅なる小説を掲載す

發行所　福井縣福井市佐佳枝中町五十一番地　福井社

イヨー別品の玉ぞろいダワイ

一個にて十たび分　定價一錢五厘

此玉子ぬかは御婦人がたのつねに御用ひのぬかへ藥を加へ玉子にてねりたるものにて御用ひの節は湯で又水にてもしめし手のひらにてすりおとし其手にて程よくはだにすりこみ手ぬぐひにてあらひおとしなされば はだはゆで玉子のむきたての如くうつくしくなりておしろいのり奇妙なり但し御つかひのあとは紐糸の所をかけおけば又は釘にかけおきいく度も御つかいなされべく此玉子ぬか一ツにて十日位も御用ひ相成候御用第一のぬか也○御進物用美麗なる折詰調進仕候

きめのよくなる

●玉掌露（ぎよくしやうろ）

一名玉のはだ　一瓶金六錢　大瓶金十錢

抑々この玉掌露は玉の如く透明にして中に香氣を含み皮膚を潤し艶を生ずる効能ある故に人々常に此露を手掌にたらし面部其外にぬりつくれば○のぼせる○となし○はだあれず

○日にやける

となし○きめこまやかにて○にきび○そばかす○あせも○ずさう其外總て過きぶきでものせず○しみを生ずることなく又寒氣風あらき時は此露を常より大く用ふれば水使ひするも○ひゞきれず○しもやけせず四季ともに皮膚の美艶をたもつこと誠に無類の佳品にして實に掌中の寶玉と云べし殊に三能しやぼんを御遣ひ跡にて御用なれば尤も効能多し

懷中良藥　たまかつら

紙製一錢五厘　布製二錢

主治　づつう●はのいたみ●うちみ●きりきづ●ひゞしもやけ●やけど●りよまちす其外諸々の痛みにより且阿娘の頭痛に惱める津液を以て痛所へ用ゆれば速に其効を奏し暗に清香を發し宛も桃花の朝に露を注ぎ牡丹の夕に雨を過せるが如く自ら美人の粧を作す實に奇製の良藥也願は四方の諸君愛求を希望す

○元祖色白くなる　**三能しやぼん**　一箇十錢　○日本第一おしろいいらず　**白妙**　一瓶金十錢

○髮のこやし毛のはへる香油　一名ふけしらず　**美人かつら**　一瓶金十錢

東京銀座一丁目　**發賣元**　つやぶきん美人かつら　**本舖**　電話番號四百七十二　**佐々木玄兵衛**

各府縣下確實品販賣有名藥舖又は小間物店にて取次販賣仕候間御最寄にて御購求奉希上候也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

毎月一回發行

(速記彙報)

正價 一冊 八錢
十二冊前金九拾錢
全國無遞送料

速記彙報第四十五ニハ

訴訟事件

記、速

大澤山川高津石黑澤井
平沼棚橋緒方石川金井
近藤藤岡重野山形北里

等 **博士學士** 諸氏

ノ演說振リ、速記者ノ
眼光ニ映シタル仙臺、
源綱紀氏蝦夷語研究論

歐洲新話

速記

者諸氏ノ消息等ヲ載ス

東京神田區裏神保町一番地

速記彙報發行所

村木經策君著

家政要旨

正價金五錢
郵稅金二錢

本書は明治女學校が「サンマー、スクール」を鎌倉に開きたる際、家政學を、生徒諸孃等に講述せしを筆記したるものにして他日幸福なる「ホーム」を作るの時に至りて益する所なくんばあらず因て共益する所一部少數の人に限るを憾み之を世上一般の姉妹諸孃に擴布せんと欲まて出板を企てたるものなり。

東京麹町區下六番町

女學雜誌社

宗教第十壹號(九月五日發行)

目錄

論林
宗教の扶堅者　古莊三郎
ゆにてりあん教に付　エッチ、エー、ホワイトマーン
吾人の生涯　土谷忠治
リバイバルにつきて　赤司繁太郎
禮式の弛張は社會の隆替　山名次郎
經濟學(接續)　川本永守

傳記
渡邊華山の傳

雜錄
自由神學校の始業近きにあり、基督組合教會關係の學校、淨土宗教師の員數、故原担山師の逸事、天海僧正、世界宗教大會議、德行美談(第三回)、水戶烈公の楠氏追慕の詠歌、寶物保存に付、福島少佐の遠征、正誤

彙報
第一ゆにてりあん協會其他數件

定價表

一冊	六錢
六冊(半年分)	三十錢
十二冊(一年分)	五十錢

凡て郵稅を要せず

廣告料

一行五號活字廿四字詰
一頁六十二行
一行以上　一回　八錢

發行所
東京京橋區加賀町八番地
日本ゆにてりあん弘道會

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

福音新報

第八十一號
九月卅日發兌

目次

◉福音新報
教會の諸會議及び事務
青年會の事業……坂本直寛
◉教報
◉小説
松の翠（第六回）……鹿嶋渚
◉外事
◉雜録
田舍牧師（百合の園主人）◉歌二首（殘花）
◉教の栞
道徳と宗教……天來滴仙
◉家庭
牛乳の害を除くの法○生命保險の解
◉時評
◉廣告

定價

市内無郵税		
一部		二錢五厘
十三部	三ヶ月分	卅一錢五厘
廿六部	半ヶ年分	六十錢
五十二部	一ヶ年分	一圓十四錢
市外郵税共		
一部		三錢
十三部	三ヶ月分	卅八錢
廿六部	半ヶ年分	七十三錢
五十二部	一ヶ年分	一圓四十錢

東京麴町三番町六十四番地
福音新報社

鈴木弘恭大人著

再版 増補

文法口授 一名和文獨案内

（半紙判日本綴）

特別賣價 金拾二錢　郵便税 金二錢

目錄

（一）文と云ものゝ譯
（二）章句段節の譯
（三）文を作るは容易なる譯
（四）多く文を作るを善とする譯
（五）文を作る工夫の事
（六）草稿の譯弁に書方
（七）文を練磨する事
（八）文を作るに病癖ある事
（九）佳篇を作る法
（十）文を培養する法
（十一）種々の文例

東京麴町區下六番町

女學雜誌社

巖本善治編

吾黨之女子教育

小形二百十七ページ
定價郵税共金拾錢

「吾黨の女子教育」成る。巖本善治君の演述又は起草に係るものを編せしものにして、本校教育の精神、期圖、大率ね之に同じく、現今實施する所ろ亦之に異なるとなければ、此書亦用ひて「吾校の女子教育」を代言するものと謂つべし。故に、君と計り、吾校之を版にして、世の同志に示すとゝす。

全部十五章

明治女學校生徒に告ぐ……一
目下の女子教育法……一
何んが中正の旨義と云ふ……三十
女子教育に關する幾多の謬見……三十四
女學及女子教育……五十四
母妻論……六十四
女學に反對する者の背論……八十四
日本女學讀本編纂……九十二
女禮と躰操……百

上躰操……百
下女禮……百五
女學校の裁縫科……百十二
塾舍に三の法あり……百二十二
武道の辨……百二十七
老母に代つて女學生へ苦情……百五十
細君内助の辨……百五十九
當今女子教育者の胸臆……百九十七
女學普及の經綸……二百〇七

明治女學校出版
女學雜誌社發賣

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

鈴木弘恭大人講述　附錄小倉てびき

第四版 百人一首講義

正價金廿八錢　郵税四錢

御高評を得たる百人一首注文いよ〳〵多く第三版品切に成りたれば玆に第四版を印行す。

發兌元　東京麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

産婆生徒看病法講習生募集

産婆生徒看病法講習生募集左ノ如シ

○産婆生徒

人員　四十名

願出　來ル十月二十日限リ

試驗出頭　同二十四日午後一時

年齢　滿二十二年以上

○看病法講習生

人員　四十名給費生二十名自費生二十名

願出　來ル十月十九日限

試驗出頭　同二十日午後一時

年齢　給費生ハ滿二十三年以上三十五年以下ニシテ夫ナキ婦人但自費生ハ年齢ヲ問ハズ

右規則書入用ノモノハ申出ニ依リ交付スベシ

明治二十五年九月　醫科大學第一醫院

是迄女學雜誌並に書籍代金弊社巖本善治宛にて御遞送に相成候向きも有之候、右にては帳簿登記上其他に於て不便に御坐候に付何卒以後直に女學雜誌社宛にて爲替御取組御郵送被成下度候

爲換御取組

女學雜誌社發送部

一書籍代金二十錢未滿は郵劵代用不苦候、郵劵は五厘切手一割增の事

一雜誌及び書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價廣告料及無料廣告

○白赤双方合せ講讀の分

十冊	前金五十八錢	府外六拾三錢
廿六冊(半年)	同一圓四十三錢	同一圓五十六錢
五十二冊(一年)	同二圓六十錢	同二圓八十六錢

○白赤の内一方講讀の分

六冊	前金三拾五錢	府外三十八錢
十三冊(半年)	同七拾三錢	同七十八錢
廿六冊(一年)	同一圓三十錢	同一圓四十三錢
一冊	金六錢	郵税金五厘

一行(廿七字詰)	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

○十行以上一割引。二十行以上二割引。

○四十行同四割引。

但し不道徳なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く

○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部增と定む。

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY